

鞍川中A遺跡

鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告 I

2005年2月

氷見市教育委員会

鞍川中A遺跡

鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告 I

2005年2月

氷見市教育委員会

序

東に富山湾を隔てた雲峰立山を仰ぐ氷見市は、古くから海の幸、山の幸に恵まれ、人々の生活の場として、数多くの文化遺産を生み育んできました。

現在氷見市内では、富山県北西部及び能登地域と三大都市圏との交流を深め、沿線地域の産業、経済、文化の発展等を目指す能越自動車道の整備が進められています。その建設にあたっては市内の各地で新たな遺跡が発見され、大規模な発掘調査が実施されています。

氷見市教育委員会は、能越自動車道の氷見ICへのアクセス道路である鞍川バイパスの整備事業に伴う埋蔵文化財の調査を担当しており、平成16年度までに鞍川中A遺跡、鞍川中B遺跡、鞍川D遺跡の本発掘調査を実施いたしました。

この報告書はそのうちのひとつ、鞍川中A遺跡の本発掘調査の成果をまとめたものです。今回の調査結果が今後の文化財保護の一助となるとともに、地域の歴史への关心、理解につながることを願っております。

終わりに、発掘調査にあたりましては、関係者の皆様をはじめ、多くの方々にご指導、ご協力を賜りました。この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

平成17年2月

氷見市教育委員会

教育長 中尾 俊雄

例　　言

1 本書は、平成14・15年度に実施した富山県水見市鞍川地内に所在する鞍川中A遺跡の発掘調査の報告書である。

2 調査は、一般国道415号（通称鞍川バイパス）道路改築事業に先立ち、富山県の委託を受けて、水見市教育委員会が実施した。

3 調査の面積・期間は次のとおりである。

　調査面積 約1,650m²

　調査期間 平成14年10月7日より平成15年4月16日（実働62日間）

4 整理作業は、遺物洗浄、注記等基礎的な作業は調査と並行して実施し、作図等の報告書作成、編集作業は平成16年度に実施した。

5 調査は、富山県からの委託金で実施した。

6 調査事務局は、水見市教育委員会生涯学習課に置いた。事務担当者は次のとおりである。

　平成14年度　　課長：池田晃、副主幹：坂本研資、主任学芸員：人野究、学芸員：新瀬直樹

　平成15・16年度　課長：池田晃、主査：尾矢英一、主査：大野究、学芸員：廣瀬直樹

7 調査は、廣瀬が担当した。

8 本書の執筆・編集は廣瀬が担当した。また遺物の実測、トレイスは廣瀬が中心となり、後述する整理補助員、整理作業員が行った。

9 グリッド杭の設置、遺構図の空中写真測量は株式会社バスクに委託した。

10 図版2・3に掲載の空中写真是、国土地理院長の承認を得て複製したものである。（承認番号 平16 北緯第206号）

11 出土遺物と調査に関わる資料は、水見市教育委員会生涯学習課が保管している。なお、鞍川中A遺跡の略号は「K R K N - A」とした。遺構図は報告書の編集にあたってふり直し、調査・整理作業時の遺構Noとの対応は遺構計測表中に記した。

12 土層の色調は農林水産省農林水産技術公議事務局監修『新版標準上色帖』に準じている。

13 調査参加者は次のとおりである。

　平成14・15年度発掘調査業務

　発掘作業：穴倉 務・嵐千恵子・井川記仔・柿本せつ子・川口君子・子浦とき子・境 信男・坂口 輝・嶋口邦子・杉木律子・高木絹子・谷川純弘・百々米木キミ子・長田雪子・中谷正一・林文子・前田貞子・丸山レイ子・南 恵市・南 幸子・宮崎 清・宮下勝代・向山清志・谷内健一・谷内敏子・谷内ヨシ子・山岸幸美・山下金次郎・山本玲子（以上、水見市シルバー人材センター）

　遺物整理作業員：三矢恵京・口南静・山木昌美・大江智志

　平成16年度整理作業・報告書作成業務

　整理補助員：山木昌美

　整理作業員：三矢恵京・口南静

14 調査、本書作成にあたり、下記の方々・機関から多大なご教示・ご協力を得た。記して感謝申し上げる。

　富山県道路課・富山県水見土木事務所・富山県文化財課・富山県埋蔵文化財センター・新湊市博物館・水見市立博物館・水見市史編さん室・三浦知徳（上市町教育委員会）・林昭男（平成15年度水見市教育委員会生涯学習課嘱託職員）・細田降博（富山大学人文学部考古学研究室学生）

目 次

第1章：遺跡の環境.....	1
第1節：遺跡の地理的環境.....	1
第2節：遺跡の歴史的環境.....	1
第2章：調査の概要.....	4
第1節：鞍川バイパス遺跡群発掘調査に至る経緯と経過.....	4
第2節：鞍川バイパス遺跡群試掘調査の概要.....	4
(1) KB-1 遺跡	
(2) KB-2 遺跡	
(3) 鞍川D遺跡	
第3節：鞍川中△遺跡本調査の概要.....	5
(1) 調査の方法	
(2) 調査の日程	
第3章：調査の成果.....	6
第1節：基本層序.....	6
第2節：遺構.....	7
(1) 湿地帯・旧河道	
(2) I・II地区	
(3) III・IV地区	
第3節：遺物.....	10
(1) 遺構内出土遺物	
(2) 包含層出土遺物	
(3) 表土・廃土中出土遺物	
第4章：まとめ.....	15
参考文献.....	20
報告書抄録	

表 目 次

表1 周辺の遺跡.....	3
表2 遺構計測表 (1) 土坑.....	17
表3 遺構計測表 (2) 流路・溝.....	17
表4 遺構計測表 (3) 小穴.....	18
表5 土層一覧.....	40

図 目 次

第1図	周辺の遺跡	2
第2図	基本構形模式図	6
第3図	射水郡横田村十右衛門組 大野新村内検地領絵図	16
第4図	鞍川バイパス試掘調査対象遺跡 位置図	21
第5図	調査区全体図	23
第6図	鞍川中A遺跡調査区位置図	23
第7図	遺構実測図(1)	25
第8図	遺構実測図(2)	26
第9図	I・II地区遺構配置図	27
第10図	遺構実測図(3)	29
第11図	遺構実測図(4)	30
第12図	遺構実測図(5)	31
第13図	遺構実測図(6)	32
第14図	遺構実測図(7)	33
第15図	遺構実測図(8)	34
第16図	III・IV地区遺構配置図	35
第17図	遺構実測図(9)	37
第18図	遺構実測図(10)	38
第19図	遺構実測図(11)	39
第20図	遺物実測図(1)	42
第21図	遺物実測図(2)	43
第22図	遺物実測図(3)	44
第23図	遺物実測図(4)	45
第24図	遺物実測図(5)	46
第25図	遺物実測図(6)	47
第26図	遺物実測図(7)	48

写真図版目次

図版1	1. 鞍川バイパス遺跡群遠景 2. 鞍川中A遺跡近景
図版2	遺跡周辺空中写真(1947年米軍撮影)
図版3	遺跡周辺空中写真(1975年撮影)
図版4	1. I地区全景 2. II地区全景
図版5	1. III地区全景 2. IV地区全景
図版6	1. 調査区俯瞰写真 2. I地区湿地帯堆積 3. 紅谷川旧河道 4. SD01・SD02 5. SD02遺物出土状況
図版7	1. SD01 2. SD01・SD02 3. SD01土層断面(b-b') 4. SD01土層断面(c-c') 5. SD02土層断面(d-d') 6. SD02・SK30土層断面(a-a') 7. SD01とSD11 8. SD01・SD02とSD13
図版8	1. SK01 2. SK01ほかI地区遺構完掘状況 3. SK04~08検出状況 4. SK04~08完掘状況 5. SD08 6. SD08 7. SD09 8. SD01とSD10
図版9	1. SD03 2. SD12・13 3. SK13土層断面 4. SK13完掘状況 5. SD14完掘状況 6. IV地区遺構完掘状況 7. 作業風景 8. 作業風景
図版10	遺物写真(1)
図版11	遺物写真(2)
図版12	遺物写真(3)
図版13	遺物写真(4)
図版14	遺物写真(5)
図版15	遺物写真(6)
図版16	遺物写真(7)

第1章 遺跡の環境

第1節 遺跡の地理的環境

氷見市は、富山県の西北部に位置し、能登半島の基部東側にあたる。昭和27年の市制施行から昭和12年までに、旧太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230km²、人口は約5万7千人である。

市域は、北・西・南の三方が標高300~500mの丘陵に取り囲まれ、東側約20kmの海岸線をもって富山湾に面している。

鞍川中A遺跡の所在する鞍川地区は、氷見市のほぼ中央を流れる上庄川下流南岸に位置する。河畔に平野が開け、背後には丘陵山地が連なる。上庄川は、氷見市南西端の大釜山(501.7m)に発し、約22kmで富山湾に注ぐ河川であり、氷見市では長さ・流域面積とともに最大である。

鞍川地区の北側に当たる上庄川下流左岸の加納地区の平野には、弥生時代から古代にかけて加納潟(仮称)という潟湖が所在したと推定される。加納潟は南北約1km、東西約0.5kmと推定され、さらに北側の余川川下流域に広がる可能性がある。

鞍川中A遺跡は、上庄川の支流、紅谷川と野手川の合流地点南側に立地し、標高は約2mである。現況は河畔に開けた平野である。鞍川地区では昭和30年代に土地改良が実施され、整然とした水田が広がる。

第2節 遺跡の歴史的環境

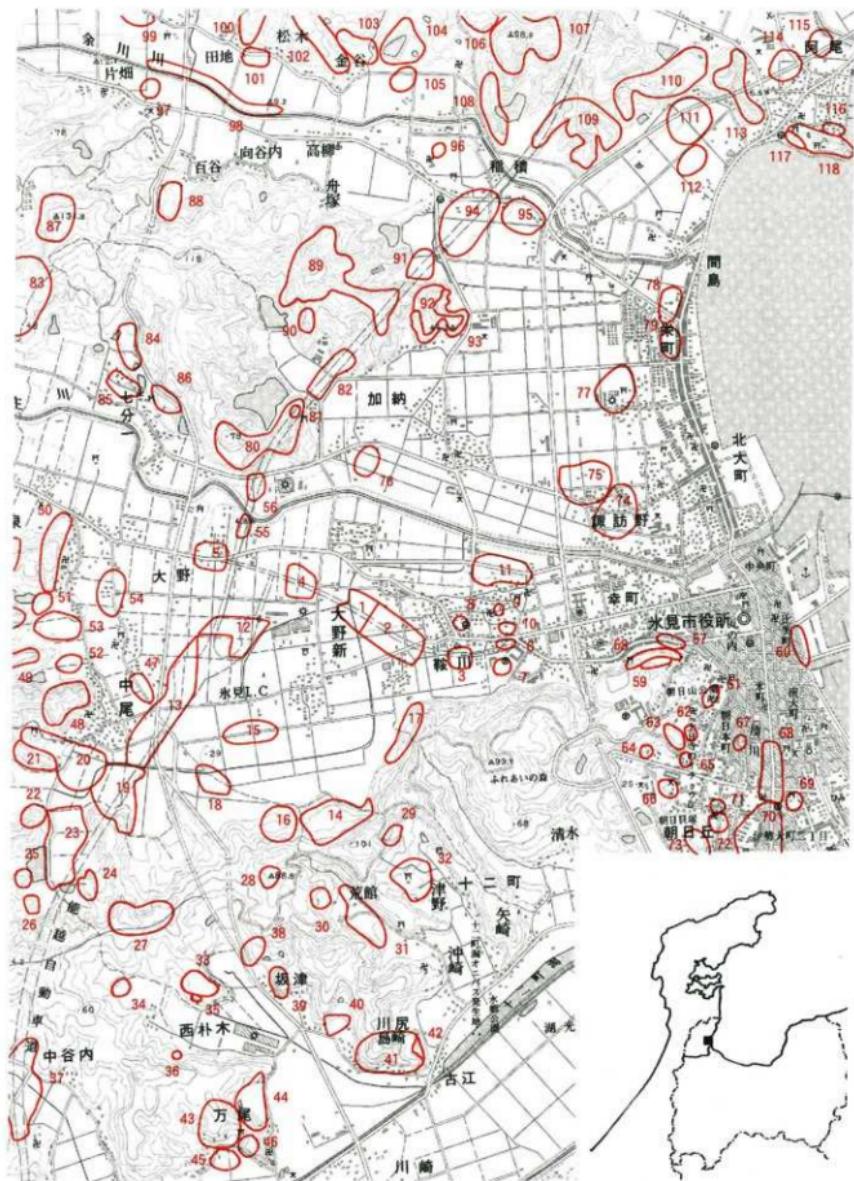
以下、上庄川流域の遺跡について下流域を中心に概観する。

上庄川流域の縄文時代の遺跡は上流丘陵部と下流域に散在している。下流域の縄文遺跡として縄文後期の鞍川寺田遺跡がある。有磯高校のグランド造成工事で縄文土器が出土したというが、詳細は不明である。

上庄川流域は弥生時代に入って積極的な土地利用が行われていったと考えられる。弥生時代中期の遺跡として鞍川中B遺跡がある。鞍川中B遺跡は加納潟に流れ込む流路のほとりの低地に営まれた遺跡である。弥生時代後期の遺跡として鞍川金谷遺跡が、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡として鞍川横羽毛遺跡、糠塚南遺跡、沖布A遺跡がある。いずれも加納潟を囲む丘陵縁辺部から微高地に営まれた遺跡である。弥生時代終末期にはいったん丘陵上へ生活圏が移動したのか、朝日山丘陵上に朝日大山遺跡が営まれている。

古墳時代には、上庄川流域から加納潟周辺にかけての丘陵上に多くの古墳が築かれた。その数は、上庄川流域で31群183基、加納潟周辺で6群62基となり、氷見市内で最も古墳が集中する地域である。これはこの地域が、氷見市内でも最も広く安定した平野が開け農業生産に適していたこと、白が峰越えのルートをはじめとする能登と結ぶ街道がこの谷を通っていたことなどが要因と推測される。だが鞍川南方の丘陵上を見ると、丘陵の反対側の布勢湖(現在の十二町潟)に面した朝日山周辺には古墳群が立地するものの、加納潟に面する鞍川側では古墳の存在は確認されていない。

古代・中世においても上庄川中下流域には遺跡が広く分布している。中世には上庄川流域から十二町潟周辺を範囲とする阿努莊という庄園があり、上庄川の水運、能登を結ぶ陸運などの要素を背景として古墳時代に引き続いて積極的な開発が行われていたと考えられる。鞍川地区では、室町・戦国期の国人土豪鞍河氏がこの地域周辺を本拠地としていたことが知られる。



第1図 周辺の遺跡 (S = 1 / 25,000)

表1 周辺の遺跡

No.	遺跡名	遺跡 地名	種別	時代	No.	遺跡名	遺跡 地名	種別	時代
1	鶴山中A遺跡	308	その他	平安・近世	60	比美麻遺跡	96	散布地	古代・中世
2	鶴川中B遺跡	354	その他	弥生・中世・平安・近世	61	蓬萊寺中古墓群	133	墓	中世
3	鶴川D遺跡	250	先序	古代・中世	62	上日寺中古墓群	53	墓	平安
4	KCD-2遺跡(仮称)	309	散布地	古代	63	鶴見寺山古墳群	292	古墳	古墳
5	KH-3遺跡(仮称)	310	散布地	古代	64	船山谷内焼火	140	横穴墓	古墳
6	鶴川中世墓	139	墓	中世	65	御日長丘古墳	55	古墳	古墳(6世紀前半)
7	鶴川寺山遺跡	97	散布地	縄文後期	66	通日水原廻遊跡	54	張布地	縄文末～飛鳥
8	鶴川A中古墓	138	墓	中世	67	領日燒跡着跡	210	散布地	中世
9	鶴川B遺跡	224	散布地	中世	68	御所町遺跡	145	散布地	中世
10	鶴川鎌足山遺跡	190	散布地	中世	69	伊勢土井井中古墓群	58	墓	中世
11	鶴川金谷遺跡	52	散布地	牛牛生後期	70	岩上遺跡	57	散布地	縄文～古代
12	大野江遺跡	317	聚落	中世	71	朝日十字路遺跡	83	その他(埋納鉢)	中世
13	神明北遺跡	366	先序	中世	72	朝日貝塚	56	古墳・生溝	縄文前～晩・弥生～古代
14	仲Bア遺跡	51	散布地	弥生～古代	73	朝日山古墳群	134	古墳	古墳
15	仲B日焼跡	92	散布地	古代	74	御前野久處跡	107	散布地	古代
16	仲B-C遺跡	252	散布地	古代・中世	75	御前野村遺跡	108	散布地	古代・中世
17	鶴川横糸川遺跡	251	散布地	弥生後～古墳	76	加納糸打遺跡	194	散布地	古代
18	御壁南遺跡	253	散布地	弥生・古墳・古墳・四世	77	加納余宮遺跡	109	散布地	古代・中世
19	中尾削石谷内遺跡	49	聚落	古墳・古代・中世	78	福積二上原遺跡	28	散布地	古代
20	中尾屋根山遺跡	39	柱状	半屏	79	福積二同原遺跡	58	散布地	古代
21	中尾芦戸古墳群・中世墓	344	古墳・墓	古墳・中世	80	加納中尾古墳・加納城跡	327	古墳・城跡	古墳・中世
22	中尾山・谷内古墳	345	古墳	古墳	81	加納中尾古墳	31	古墳	中世
23	中尾芦戸遺跡	316	集落	古墳・古代・中世	82	トロト・古墳跡(仮称)	373	散布地	縄文・古代・中世・近世
24	中尾横穴墓	48	渋水墓	古墳	83	袖ヶ谷古墳群	216	古墳	中世
25	中尾ガタ山遺跡	120	その他(埋納鉢)	中世	84	七分・跡跡	101	散布地	牛牛生後・古墳・中世
26	中尾山面遺跡	187	散布地	古代	85	七分一馬遺跡	109	散布地	古代・中世
27	中尾森吉古墳群	352	古墳	古墳	86	七分・古墳・古墓	328	古墳・墓	古墳・中世
28	荒絶北遺跡	62	破壊伝承地	小羽	87	高寧遺跡	18	城壁伝承地	中世
29	上・町ノ沢山古墳群	216	古墳	古墳	88	企川谷・谷内遺跡	47	散布地	古代・中世・近世
30	荒越・そぎ遺跡	192	墓	中世	89	木谷城跡	30	城跡	中世
31	荒劍山遺跡	106	散布地	縄文・中世	90	加納荒劍古墳群	326	古墳	古墳
32	十・町瀬遺跡	242	後古堤	古代	91	NEJ-1-25遺跡(仮称)	374	散布地	古代・中世・近世
33	西野木古墳群	359	古墳	古墳	92	加納經子・古墳跡	150	古墳	古墳
34	西野木ジョリツツジ遺跡	383	散布地	古代・中世・近世	93	加納糸火穴	32	横穴墓	古墳後～古代
35	西野木ソギヤナギ遺跡	381	その他(埋納鉢)	中世	94	NEJ-1-28遺跡(仮称)	375	散布地	古代・中世・近世
36	西野木ソウガヤナギ遺跡	382	墓	中世	95	福積山古墳	260	散布地	古墳・古代
37	中谷内遺跡	274	集落	縄文・古墳・古代・中世	96	福積山内遺跡	99	散布地	弥生終・古代・中世
38	坂戸遺跡	100	散布地	古代	97	余川片畠遺跡	38	散布地	古墳後期
39	坂戸横穴群	64	横穴墓	古墳	98	余川谷・谷内遺跡	115	散布地	古墳・古民・中世・近世
40	坂戸D遺跡	247	散布地	弥生	99	余川名譽遺跡	209	散布地	古代・中世
41	鳥崎城跡	249	被覆	中世	100	余川田畠古墳群	325	古墳	古墳
42	十・町島崎遺跡	248	散布地	弥生	101	余川港尾山遺跡	103	散布地	古代
43	万瓦城跡	339	城跡	中世	102	余川金谷古墳群	324	古墳	古墳
44	万瓦遺跡	63	散布地	弥生・古墳・古代	103	余川名谷古墳群	102	散布地	古墳後・古代
45	万瓦遺跡	270	散布地	弥生～近世	104	福積糸池遺跡	93	散布地	縄文・古代・中世
46	万瓦・小坂	265	古墳	古墳	105	福積糸谷内遺跡	70	散布地	古墳後・奈良・平安
47	大野川遺跡	255	散布地	古墳・中世	106	福積糸鷲谷古墳群	305	古墳	古墳
48	中尾城古墳群	343	古墳	古墳	107	福積城跡	29	城跡	中世
49	中尾森吉古墳群	342	古墳	古墳	108	福積糸河内古墳群	301	古墳	古墳
50	余住吉古墳群	329	古墳	古墳	109	福積糸河内古墳群	303	古墳	古墳
51	余住人遺跡	188	散布地	縄文～古代	110	阿尾尾山遺跡	302	古墳	古墳
52	和D遺跡	189	散布地	古墳・古代	111	阿尾尾山D遺跡	88	集落	縄文・古代・中世
53	吳C遺跡	256	散布地	古代	112	阿尾尾山B遺跡	110	散布地	縄文・中世
54	大野川遺跡	211	散布地	縄文・古代	113	阿尾尾山野山群	26	城跡	中世
55	大野川中遺跡	371	散布地	古代	114	阿尾尾山A遺跡	181	集落	縄文・古代～近世
56	七ヶ堂口遺跡	372	散布地	古代	115	阿尾尾山B遺跡	182	散布地	縄文・古代～中世
57	七ヶ町遺跡	163	散布地	縄文後期	116	阿尾尾山C遺跡	23	散布地	弥生終・古墳
58	朝日山城跡	219	被覆	中世	117	阿尾尾山横穴群	24	横穴墓	古墳
59	朝日大山遺跡	361	散布地	弥生終・古墳	118	阿尾尾跡	25	城跡	中世

第2章 調査の概要

第1節 鞍川バイパス遺跡群発掘調査に至る経緯と経過

平成12年3月22日、富山県教育委員会により一般国道415号（通称鞍川バイパス）の建設計画地、鞍川・大野・人野新地区の分布調査が実施された。その結果、周知の鞍川D遺跡、鞍川B中世墓のほかに新たな埋蔵文化財包蔵地の存在を3箇所で確認した。新たに確認された包蔵地はそれぞれKB-1遺跡、KB-2遺跡、KB-3遺跡と仮称された。

その後平成12年度には路線の測量、上質調査が実施され、平成13年度からは用地買収が進められた。

水見市教育委員会による試掘調査は、用地買収がほぼ終了した遺跡から実施されることになり、平成14年2月にKB-1遺跡、KB-2遺跡、鞍川D遺跡の試掘調査を実施した。その結果、KB-1遺跡中の2箇所と鞍川D遺跡の西側で遺構、遺物が確認され、本調査が必要であると判断した。KB-1遺跡は南北に分割し、それぞれ鞍川中A遺跡、鞍川中B遺跡とした。試掘調査の結果については第2節で概要を報告する。

平成14年度より本調査を開始、鞍川中A遺跡、鞍川D遺跡、鞍川中B遺跡の順で調査を実施していき、平成16年度まで本調査を実施した。

平成15年度には用地買収の終了に伴い鞍川B中世墓、KB-3遺跡で、調査対象地のそれぞれ半分の試掘調査を実施した。

第2節 鞍川バイパス遺跡群試掘調査の概要（第4図）

KB-1遺跡、KB-2遺跡、鞍川D遺跡の試掘調査の概要について、ここで報告しておく。

調査の概要是次のとおりである。

事務局 水見市教育委員会生涯学習課

事務担当 講師：森静治、文化係長：坂本研資、主任学芸員：大野究、学芸員：廣瀬直樹

調査担当 学芸員：廣瀬直樹

対象面積 KB-1遺跡 約10,300m²

KB-2遺跡 約3,400m²

鞍川D遺跡 約3,300m²

調査期間 平成14年2月20日より2月26日（実働4日間）

調査参加者 発掘作業：沢井正雄・沢井とき・瀬戸清・坂田かずい・谷口利子・中村かず子・向春子・山端律（以上、水見市シルバー人材センター）

修理作業：三矢恵京・日南静

（1）KB-1遺跡

2箇所で遺構及び遺物包含層の残存を確認した。遺跡北側では、溝、流路などを検出した。遺物は土器片、近世磁器の計3点が出た。遺跡南側では、黒色のシルト質土中から弥生中期の土器がまとまって出土しており、弥生時代の遺物包含層が残存しているものと考えた。そのほか溝、土坑を検出した。一方、遺構及び遺物包含層を確認していない地点は、土層の堆積から湿地帯が広がっていたものと判断

した。

試掘調査の結果、本調査が必要な地区は、湿地帯を挟んで南北2地点に離れてしまうことになった。そのため今後の調査の利便性を図るため、KB-1遺跡を南北に分割し、それぞれを別遺跡として扱うこととした。遺跡名は所在地の小字「中」から取り、KB-1遺跡の北側を鞍川中A遺跡、南側を鞍川中B遺跡とした。

(2) KB-2遺跡

分布調査では須恵器が採集されている。試掘調査の結果、調査区全体が湿地帯で、遺物・遺構は確認できなかった。本発掘調査の必要はないと判断した。

(3) 鞍川D遺跡

遺跡西側で遺構を確認した。遺物は、須恵器・珠洲焼・近世陶磁器などが出土した。遺跡東側では過去の圃場整備の影響を強く受けており、造成土が厚く堆積している。造成土の下層で遺構は確認していない。

鞍川D遺跡、鞍川中B遺跡の試掘調査出土遺物については、それぞれの遺跡の本調査の報告書を取り上げる予定である。また平成15年度以降に実施の鞍川B中世墓、KB-3遺跡の試掘調査についての報告は次年度以降に行う予定である。

第3節 鞍川中A遺跡本調査の概要

(1) 調査の方法(第6図)

本調査にあたっては、調査区を4分割してIからIVまでの地区名を割り振り、I・III地区、II・IV地区的順で調査を実施した。その際、調査を行わない地区は隣接する地区的廃土置き場として利用した。なお、調査は当初鞍川バイパスの路線内ののみを対象としていたが、本路線の工事に伴って調査区を流れる野手川と紅谷川の迂回路を掘削する必要性が生じたため、I地区とIII地区で迂回路の分、調査の範囲を拡大している。

表上除去作業には重機を使用し、その後の作業はすべて発掘作業員による人力で掘削を行った。表土除去作業の終了後、国土座標(座標系第VII系)を用いて10m間隔に基準杭を設定して調査を実施した。

(2) 調査の日程

平成14年10月7日よりI・III地区にて重機による表土掘削を実施した。10月15日には調査器材を搬入し、発掘作業員による作業を開始、以後I地区とIII地区を並行して作業を続けた。当初は平成14年度中の調査終了を予定していたが、調査区を拡張したことや雨が続いた影響で、調査期間は延長を余儀なくされた。そこで12月19日でいったん調査を打ち切り、翌平成15年2月7日に調査を再開した。2月27日に空中写真の撮影を実施、I・III地区の調査を終了した。

続いてII・IV地区的調査を開始し、3月4日から重機による表土掘削、3月10日から発掘作業員による作業を実施した。平成15年4月16日に空中写真の撮影を実施してII・IV地区的調査を終了した。その後器材の撤収を行い、鞍川中A遺跡のすべての作業を終了した。

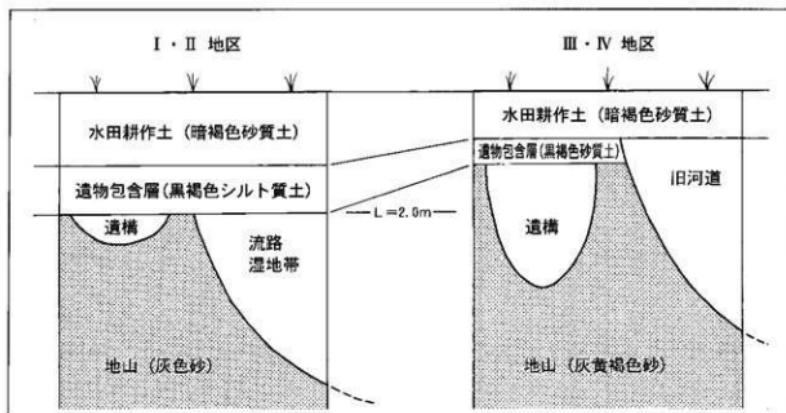
第3章 調査の成果

第1節 基本層序（第2図）

調査区は、紅谷川と野手川の合流地点南側に位置する。調査区北側を東西に流れる紅谷川は、調査区を南北に縱断して流れる野手川が合流する地点で大きく屈曲し、北向きに流れを変える。鞍川では昭和30年代に土地改良が行われており、おそらくその時点に紅谷川と野手川、両河川の河川改修が行われたと考えられる。そのため、調査区全体にわたって河川改修と土地改良双方の影響を受けている様子が見受けられる。

基本層序は、野手川を挟んで向かい合うI・II地区とIII・IV地区でやや様相が異なるが、基本的に3層に大別できる。I・II地区では、水田耕作土（暗褐色砂質土）、遺物包含層（黒褐色シルト質土）、地山（灰色砂）となる。一方のIII・IV地区では、水田耕作土（暗褐色砂質土）の下に遺物包含層（黒褐色砂質土）が薄く堆積し、地山（灰黃褐色砂）となる。

このうち、水田耕作土は昭和30年代の土地改良による盛土であろう。遺構は地山上で検出しているが、特にI・II地区側で上面が大きく削平されており、その上に遺物包含層が堆積する。また旧河道はこの遺物包含層に掘り込まれている。以上より調査で遺物包含層として扱った黒褐色砂質土層は、土地改良以前の旧表土と考えられる。



第2図 基本層序模式図 (S = 1 / 20)

第2節 遺構

今回の調査では、溝・流路・土坑・小穴等を検出した。そのほかI地区北側、III・IV地区の北側に広がる湿地帯、III・IV地区を南北に縦断する近現代の河道を検出した。

主な遺構についてはI・II地区とIII・IV地区それぞれについて以下に記述した。その他の遺構については詳述せず、別に計測表を設けた。また周辺の地形の変遷を知る手がかりになると考え、旧河道、湿地帯についても概略を示した。

(1) 湿地帯・旧河道(第5・7・8図、図版6)

湿地帯(I地区) 調査区の西側から北側に広がる湿地帯である。遺物は、検出面で中世土師器が1点出土している。湿地帯堆積を切るように土地改良前の紅谷川が流れているが(図版6-3)、平面プランははっきりしない。湿地帯の水際ラインに沿って3本の溝が検出されている。

湿地帯(II・IV地区) 旧河道から続く湿地帯である。第8図のD-D'第2層と第3層の境目から大量の近現代陶磁器類や漆器が出上している。また第8図E-E'で示した断面図は、湿地帯に伴う小川である。

旧河道 III・IV地区を南北に流れる河道である。図版2の1947年撮影の空中写真に写る土地改良前の野手川であろう。木杭に竹を横に組み合わせて護岸してある。紅谷川との合流地点付近で幅が広くなり、上記の湿地帯を形成している。湿地帯と旧河道は土地改良の時点ではほぼ同時に埋め立てられたと考えられる。埋土からは近現代の陶磁器類・日用雜貨の残骸に混じって古代須恵器、中世珠洲焼等が出土している。

(2) I・II地区(第9~15図、図版4・6~9)

I・II地区では流路、土坑、溝、小穴等を検出している。前述したとおりI・II地区で検出した遺構のほとんどは削平され深い。

流路(第9・10図、図版6・7)

SD01 I・II地区の中央を東西に流れる流路である。検出長はSD02との合流地点まで約21m、最大幅約7m、深さ82cmを測る。西から東へ流れ、SD02と合流して北向きに流れを変える。断面の観察から、ある程度まで自然堆積で埋没していったものと考えられる。検出面で中世珠洲焼と近世越中瀬戸が各1点、上層で中世土師器が1点、下層で中世珠洲焼が1点出土している。

SD02 I・II地区の東側を南北に流れる流路である。検出長は、SD01との合流点以北も含んで約26m、最大幅約7m、深さ73cmを測る。断面の観察では、検出面まで自然堆積で埋没していったと考えられる。古代土師器1点、中世珠洲焼9点、中世土師器7点が出土している。

SD01とSD02の合流点から下流では古代須恵器1点、中世珠洲焼3点、中世土師器1点が出土している。うち須恵器1点と珠洲焼2点は地山直上からの出土である。

SD01とSD02、どちらも出土遺物は多くないが、自然堆積層と地山の間から須恵器(8世紀代)、珠洲焼(12世紀後半~14世紀代ないし15世紀前半)が出土している。古代の遺物は少ないため混入品の可能性があるものの、おむね古代から中世にかけての流路で、14~15世紀以降に自然堆積が進行し、近世には完全に埋没したと推測される。それぞれSD01が紅谷川、SD02が野手川の旧河道である可能性が

ある。

土坑（第10～14図、図版7・8）

12基の土坑を検出した。広く浅い不整形の土坑がSD01北側に散在し、やや小型で不整円形・不整橢円形の上坑がSD02の東岸に集中している。

SK01 濡地帯南東に位置する不整形の土坑である。検出最大長704cm、検出最大幅682cm、深さ16cmを測る。濡地帯に伴うと考えられるSD05に切られている。

SK02 SK01の東側に位置する不整形の土坑である。長径498cm、短径280cm、深さ17cmを測る。須恵器が1点出土している。

SK06 SD02の東岸に集中する土坑のうちの1基である。不整長方形を呈し、SK07に切られる。長径212cm、短径126cm、深さ34cmを測る。中世土師器1点が出土している。

SK08 不整橢円形を呈し、長径160cm、短径85cm、深さ38cmを測る。土師質の鉢が2点出土している。

SK09 SD01の南側に位置する不整橢円形の土坑である。長径160cm、短径85cm、深さ38cmを測る。中世土師器が1点出土している。

SK30 SD02東岸に位置する円形の上坑である。長径104cm、短径87cm、深さ53cmを測る。層位の堆積、埋土はSD02と似ており、SD02に伴って掘削された何らかの施設（川戸など）がSD02とともに埋没したものか、流れが濁んでできた自然地形か、両方の可能性があろう。

溝（第11～15図、図版7～9）

11本の溝跡を検出した。

SD03・SD04・SD05 濡地帯の水際のラインに平行する溝である。濡地帯に伴う遺構と考えられる。

SD08 調査区中央に位置する馬蹄形の平面形をもつ溝である。長さ682cm、最大幅68cm、深さ24cmを測る。中世土師器が2点出土している。

SD09 方形の突出部を持った溝である。同方向に延びるSD10に切られる。またSD08の南辺とも同方向で、SD08とSD10のどちらかと一連の溝と考えられる。

SD10・SD11 SD10はSD08とSD09を切り、SD01と平行に延びる溝である。東側はSD11に切られる。残存長884cm、最大幅93cm、深さ11cmを測る。

SD11はSD10に続く形で東に延びる溝で、長さ486cm、最大幅49.5cm、深さ13cmを測る。SD10・SD11ともにSD01に平行しており、SD01に伴うものと考えれば中世の遺構となる。

SD12・SD13 SD12とSD13はSD02を切り、平行に並んだ溝である。SD12は検出長446cm、最大幅70cm、深さ41cmを測る。古代須恵器1点、中世土師器3点、近世磁器1点のほか、焼けた粘土塊が出土している。SD13は検出長470cm、最大幅69cm、深さ25cmを測り、SK05に切られる。近世磁器が1点出土している。SD12・SD13とともにSD02が埋没したと考えられる近世以降の遺構である。

小穴（表4）

小穴を88基検出した。浅く不整形なものが多く、柱痕等は確認していない。柱穴列あるいは建物跡を復元できるものはない。

(3) III・IV地区(第15~18図、図版5・9)

III・IV地区では土坑、溝、小穴を検出している。調査区中央を旧河道が南北に流れているため、壊された遺構も多いと考えられる。

土坑(第17~19図、図版9)

17基の土坑を検出した。

SK13 長径216cm、短径165cm、深さ51cmを測り、平面形は橢円形を呈する。古代須恵器1点、中世珠洲焼1点、中世上師器3点、近世越中瀬戸1点、近世陶磁器2点が出土しているほか、地山近くから笄1点が出上している。出土遺物には時期幅があるが、近世以降の遺構である。

SK16 橢円形を呈し、長径100cm、短径73cm、深さ22cmを測る。古代須恵器1点が出土している

SK24 不整橢円形を呈し長径277cm、短径107cm、深さ17cmを測る。埋土は粘性が強くやや青みがかかった黒褐色粘質土で、橙色粘質土ブロックが少量混じっている。

SK25 橢円形を呈し、長径130cm、短径49cm、深さ18cmを測る。中世土師器が1点出土している。

SK29 IV地区中央に位置する不整形の土坑である。残存長426cm、短径338cm、深さ12cmを測る。

溝(第18・19図、図版9)

6本の溝跡を検出した。

SD14 検出手長650cm、検出最大幅134cm、深さ49cmを測る。古代須恵器1点、古代土師器2点のほか、焼けた粘土塊が出土している。

SD15 検出手長485cm、最大幅118.5cm、深さ49cmを測る。南側で東へ折れ、小溝が延びる。SD14とはほぼ同方向で、同様の規模の溝である。

SD16 長さ215cm、最大幅26cm、深さ8cmを測る。時期不明の土器細片が1点出土しているが、湿地帯の水際ラインに平行なため、湿地帯に伴う遺構の可能性がある。

SD17・SD18・SD19 いずれもIV地区の南辺に沿う溝跡である。SD17は長さ386cm、残存最大幅82cm、深さ46cmを測る。近世越中瀬戸2点、中世上師器2点、近世磁器3点が出上している。SD18は長さ159cm、残存最大幅76cm、深さ38cmを測る。古代須恵器が出土している。SD19は長さ438cm、残存最大幅66cm、深さ26cmを測る。中世珠洲焼1点、上器細片1点、近世陶器が出土している。

小穴(表4)

小穴を54基検出した。I・II地区検出の小穴と同様、浅く不整形なものが多く、柱痕等は確認していない。柱穴列あるいは建物跡を復元できるものはない。

第3節 遺 物

調査では647点の遺物が出土した。内訳は古代須恵器51点、古代土師器6点、中世珠洲焼68点、中世土師器32点、土器細片175点、青磁4点、漸江美濃5点、近世越中瀬戸47点、その他陶磁器245点、その他の遺物14点である。そのうち203点を図示した。なお珠洲焼は吉岡康暢氏の7期編年（吉岡1994）に準拠した。曆年代はI期：12世紀後半、II期：13世紀前半、III期13世紀中葉～1270年代、IV期1280年代～1370年代、V期：1380年代～1440年代、VI期：1450年代～1470年代、VII期：1480年代～1500年と推定されている。

（1）遺構内出土遺物

SD01出土遺物（第20図）

1・2は中世珠洲焼の壺類體部である。いずれも焼成は良好だが、1は内外面の摩滅が著しい。2は、外面の平行叩き目が3cm当たり14目と細密なもので、吉岡編年でIII期頃のものと考えられる。SD02出土の5とは同一個体の可能性がある。3は近世越中瀬戸の鉢類か。口縁部を外面に折り返している。外面に鋸歯がかかる。そのほかに中世土師器IIIが1点出土している。

SD02出土遺物（第20図）

4は古代土師器の壺体部破片である。表面調整は、外面に平行叩き痕とカキメ、内面に同心円状当て具痕が残る。外面は灰白色、内面はぶい黄橙色を呈する。

5～13は中世珠洲焼である。5～8は壺類の体部破片。5はSD01出土の2と同一個体の可能性がある。7は外面に綾杉状叩きを施すが、破片中央部の摩滅が著しい。9～12は擂鉢である。9は口徑25cmを測り、中央部を強く窪ませた水平口縁を持つ。鉢目は確認できない。10は内外面に煤が付着し、底外面の磨耗が激しい。11は、鉢目に方向が一定でない曲線文を施し、内面、底外面とも摩滅が激しい。体外面にはヘラ傷が確認できるが、何らかの刻字の可能性がある。12は、2.2cm幅に10目の原体を用いた鉢目が弧状に入れられる。焼成はやや甘く、外面に煤が付着する。時期は9がI期、11・12がII期、10がIII～IV期と考えられる。13は壺底部付近の破片である。

SD01・02合流点下流出土遺物（第20図）

14は古代須恵器杯B身の底部破片である。高台径11.5cmを測る。酸化硬質の焼き上がりでぶい橙色を呈する。8世紀代のものであろう。

15～17は中世珠洲焼壺類の体部破片である。地山直上から出土の17は、外面の平行叩きが3cm幅に9目とやや荒く、V期まで下る可能性がある。

SD08出土遺物（第21図）

18は中世土師器皿の口縁部である。焼成はやや甘くぶい黄橙色を呈する。

SD08からはこのほかにも土器片が1点出土している。

SD12出土遺物（第21図）

19は古代須恵器瓶類の高台部か。高台径11.2cmを測る。焼成はやや甘く、内外面は灰色だが、器壁内側がぶい黄橙色を呈する。

SD12ではこのほかに中世土師器3点、近世磁器1点が出土している。

SD13出土遺物（第21図）

20は近世の肥前系磁器の見込み部分である。底外面に銘款が入れられており、二重方形枠内に篆書体

の字が入る。

SD14出土遺物（第21図）

21は古代須恵器の杯Aである。焼成良好で灰色を呈する。22は古代土師器の甕か。外面にハケメが確認できる。焼成はやや甘く、灰黄褐色を呈する。

SD16出土遺物

細片のため図化していないが時期不明の上器片が1点出土している。

SD17出土遺物（第21図）

34～36は近世磁器である。34は碗類の口縁部破片で、口径12.0cmを測る。35は染付の小杯で、口径6.4cmを測る。36は底部破片で、底径5.4cmを測る。外面上半に明緑色の釉がかかる。

SD18出土遺物（第21図）

37は古代須恵器の杯B蓋である。焼成は良好で、灰色を呈する。

SD19出土遺物

細片のため図化していないが、中世珠洲焼擂鉢が1点、時期不明の土器片が1点、近世陶器が1点出土している。

SK02出土遺物（第21図）

23は古代須恵器杯類の体部破片である。焼成は良好で灰色を呈する。

SK06出土遺物

細片のため図化していないが中世土師器が1点出土している。

SK08出土遺物（第21図）

24・25は土師質の鉢である。どちらも焼成は著しく不良で、灰白色を呈する。どちらも摩滅が激しく詳細は不明だが、25には節目が確認できる。24は底径14.0cmを測る。いわゆる土師質擂鉢もしくは珠洲焼擂鉢の粗悪品か。

SK09出土遺物

細片のため図化していないが中世土師器片が1点出土している。

SK13出土遺物（第21図）

26は古代須恵器の杯A底部破片である。焼成は良好で暗灰色を呈する。

27・28は中世土師器皿である。27は口径8.0cmを測る。どちらも非クロ成型で、焼成は良好、にぶい橙色を呈する。

29は中世珠洲焼の甕体部破片である。外面に綾杉状叩き痕が残る。焼成は著しく不良で、灰白色を呈する。

30は近世磁器染付碗。31は近世越中瀬戸の小壺である。内外面に銷釉を施す。

32は銅製の斧である。U字形に曲がった状態で出土した。復元長14.3cmを測り、重さ5.6gを量る。

SK13からはこのほかにも、刷毛目文様を持つ肥前系陶器が1点、中世土師器が1点出土している。

SK16出土遺物（第21図）

33は古代須恵器壺瓶類の肩部破片である。焼成は良好で灰色を呈する。

SK25出土遺物

細片のため図化していないが中世土師器が1点出土している。

旧河道出土遺物（第21図）

旧河道埋土中から出土した遺物を一括して報告する。いずれも土地改良時に二次的に埋没したものである。近現代陶器類や日用雑貨の残骸と入り混じって出土しており、遺跡外から紛れ込んだものも含まれよう。

38～45は古代須恵器。38・39は杯B蓋である。38は口径11.6cmを測る。口縁端部は外反する。焼成は非常に堅緻で、内外面は暗青灰色、断面は暗赤褐色を呈する。39も38同様、非常に堅緻な焼成で、内外面は暗青灰色、断面は暗赤褐色を呈する。40は小型の壺口縁部。口径は10.4cmを測り、焼成は良好である。41は壺瓶類体部破片、42は杯類体部破片。43～45は甕体部破片。43は外面に格子状叩き痕にカキメ、内面に同心円状当て只痕が残る。44は外面に平行叩き痕、内面に同心円状当て只痕が残る。45は外面に平行叩き痕、内面に平行線文当て只痕が残る。いずれも焼成は良好で、灰色を呈する。

46～48は中世土師器皿。46・47は焼成良好で、46が橙色、47がにぶい橙色を呈する。摩滅が著しい。48は非クロ成型で口径10.8cmを測る。焼成良好で橙色を呈する。口縁部に煤が付着し、灯明皿と考えられる。

49・50は中世珠洲焼。49は焼成良好だが、50は還元軟質の焼きあがりとなり、灰白色を呈する。内外面とも摩滅が激しい。

51～53は近世越中瀬戸。51・52は小壺。51は口径14.8cmを測る。どちらも内外面に錫釉を施す。53は擂鉢で、刮目との磨耗が著しい。内外面に錫釉を施す。

湿地帯出土遺物（第21～23図）

I地区の湿地帯から出土した64を除きIII・IV地区の湿地帯からの出土で、旧河道出土遺物同様、土地改良時に一次的に埋没したものである。

54～62は古代須恵器。54は杯B蓋である。宝珠形のつまみを持つ。つまみ径は2.6cmを測る。焼成は良好で灰色を呈する。55は杯B身である。焼成は良好で灰色を呈するが、全体に剥離や欠落が激しい。高台径は6.8cmを測る。56は杯Aである。粗雑な胎土で、焼成は悪く、全体に摩滅する。57は杯類の体部破片。58・62は甕の体部破片。58は焼成良好で灰色を呈し、外面に平行叩き痕とカキメ、内面に同心円状当て只痕が残る。62は還元軟質の焼き上がりで、灰白色を呈する。外面に平行叩き痕とカキメ、内面に同心円状当て只痕が残る。59～61は壺瓶類の体部破片である。いずれも焼成は良好で灰色を呈する。

63は古代土師器の甕口縁部である。焼成は良好でにぶい黄橙色を呈する。

64はI地区の湿地帯上層から出土した中世土師器皿である。焼成は良好で橙色を呈する。非クロ成型と考えられるが、内外面とも器壁の剥落が著しい。

65～79は中世珠洲焼。65～69は擂鉢である。66は口径35.6cmを測る。口縁内端面に波状文を施す。時期は67がI期ないしII期、66がV期と考えられ、65は刮目からV期の可能性がある。70～79は壺瓶類の体部破片である。

80～85は近世越中瀬戸。80は天目茶碗である。口径11.0cmを測る。内外面に錫釉を施す。81は碗類の体部で、内外面に錫釉を施し、外面下部は露胎となる。82・83・85は小壺の体部破片で内外面に錫釉を施す。84は皿口縁部。口径11.8cmを測り、内面及び外面上半に錫釉を施す。

86は瓦質の暖房具である。水見ではネコゴタツといい、置炬燵として使用されたものである。明治には存在が確認でき、昭和30年代頃まで使われた。

87は不明石製品である。最大長11.1cm、最大幅6.15cm、最大厚1.0cmを測り、重さ86.4gを量る。粘板

岩製である。片面の中央に摩滅してできた楕円形のくぼみがある。両横の端面は平たく滑らかに面を取る。

(2) 包含層出土遺物 (第23~26図)

88~185は土地改良前の旧表土中から出土したものである。

88は流紋岩の剥片である。端部が欠損する。残存長3.8cm、最大幅3.2cm、最大厚0.7cmを測り、重さ6.8gを量る。

89~109は古代須恵器。89~94は杯B蓋である。89は口径16.8cmを測る。口縁端部は外反するもの。焼成は良好で灰色を呈する。92は口径16.6cmを測る。口縁端部は丸くおさめる。焼成は良好で灰色を呈する。95~97は杯B身である。95は高台径11.8cm、焼成不良で軟質に焼きあがり、灰白色を呈する。96・97は焼成良好で、高台径は96が13cm、97が7cmを測る。98・99は杯Aである。98は焼成良好で底径が6.8cmを測る。99は焼成不良で軟質、底径は8.8cmを測る。100~102は杯類の破片。100は外面上に線刻があるが、後世の傷かもしれない。101は酸化硬質でにぶい黄褐色を呈する。103は壺瓶類の肩部破片。焼成良好で灰色を呈する。104は壺瓶類の体部破片。外面上にヘラケズリ痕が残る。焼成は良好で外面上に自然釉がかかる。105~109は壺類の体部破片である。いずれも焼成良好で、内面に同心円状當て只痕、外面上に平行叩き痕が残る。

110~116は中世上器皿である。いずれも非クロ成型である。口径は、110が10.8cm、111が12.8cm、112が10.2cmを測る。110は内面にかすかに煤が確認でき、灯明皿の可能性がある。

117は上器質の鉢。24・25と同種のものか。焼成は著しく不良で、灰白色を呈する。底径は11.8cmを測る。内外面とも摩滅が著しい。

118・119は土製品。118は土鍾である。残存長4.7cm、残存幅4.1cm、内径1.9cmを測る。形態は橢型に分類される。焼成は良好で浅黄褐色を呈する。119は土板状製品の隅部の破片である。穿孔してあり、穴を中心にして花と鳥のレリーフがあしらわれている。土板本体は、レリーフごと型押し成型と考えられる。焼成は良好でにぶい橙色を呈する。

120~147は中世珠洲焼。120~126は擂鉢である。120は口径29.2cmを測る。焼成はやや甘い。121は口径18cmを測る小鉢の類である。焼成は良好で、堅緻な仕上がりである。122は口径28.2cmを測る。口縁内端面に波状文がかすかに確認できる。胎上は粗雑で、焼成も甘い。123は口径40cmを測る。口縁部の先端を水平に突出させる。124~126は体部破片で、いずれも焼成は良好である。時期は120と121がⅠ期ないしⅡ期、123がⅣ期、122がⅤ期と考えられる。127~132は蓋ないし擂鉢の体部下部の破片である。128は著しく胎土が粗雑で焼成も悪く、褐灰色を呈する。129・130は焼成良好で胎土も緻密である。131は、焼成は良好だが、胎土に混入物が多く、焼きぶくれが見られる。底外面は摩滅が著しい。132は体外面から底外面に煤が付着する。底外面は静止糸切り痕が残る。133~147は壺瓶類の体部破片である。

148~151は青磁である。148と149は碗で、外面に蓮弁文が確認できる。13世紀頃のものか。

152~156は瀬戸美濃である。152は折縁深皿。口径27.6cmを測る。水平口縁の端部をへこませたもの。内外面に灰釉を施す。15世紀代のものであろう。153は鉢類の体部。内外面に灰釉を施す。154は瓶類か。外面に灰釉を施す。155は削り出し高台を持つ碗の底部。高台径5.6cmを測り、内面及び外面上半に灰釉を施す。156は内壳皿。内面上半及び外面に灰釉を施す。

157~185は近世越中瀬戸。157~160は皿である。157は口縁部で、口径15.9cmを測る。内外面上半に

鉛釉を施す。158～160は削り出し高台の底部破片で、いずれも露胎である。161～164は椀類。161は口径9.6cm、162は口径11.0cmを測り、いずれも内外面は鉄釉を施す。163は底部の破片である。削り出し高台で、高台径4.8cmを測る。内面及び外面上半に鉄釉を施す。内面164は体部破片で、内外面とも鉄釉を施す。165は瓶類の頸部破片。内外面に鉄釉を施す。166～170は擂鉢。166は卸目の摩滅が著しい。いずれも内外面に鉛釉を施す。171～185は小壺。体部から底部の破片に関しては匣鉢の可能性がある。171～174は小壺の口縁部破片で、口径は171が8.0cm、172が8.0cm、173が9.0cm、174が10.6cmを測る。いずれも内外面に鉛釉を施す。175～181は体部破片。177は内外面に鉄釉を施すが、それ以外は内外面とも鉛釉である。182～185は底部破片で、183が内外面露胎である他は内外面とも鉛釉を施す。底外面はいずれも回転糸切りである。

(3) 表土・廃土中出土遺物（第26図）

186～189は古代須恵器である。186は杯蓋。酸化硬質で、にぶい橙色を呈する。外面に重ね焼き痕が残る。187～189は壺体部破片。いずれも焼成は良好で、187は内面に同心円状當て具痕、外面に格子状叩き痕、188・189は内面に同心円状當て具痕、外面に平行叩き痕が残る。

190は古代土師器壺の体部破片である。焼成は良好で浅黄橙色を呈する。外面に平行叩き痕、内面に平行線文當て具痕が残る。

191は中世土師器皿。非ロクロ成型で、焼成は良好だが、全体に摩滅が著しい。

192～195は中世珠洲焼である。192～194は壺蓋類の体部破片。195は擂鉢。卸目は細密なものでⅡ期あるいはⅢ期と考えられる。

196～202は近世越中瀬戸である。196・197は椀類で、内外面に鉄釉を施す。198は削り出し高台を持つ皿の底部破片。199～201は匣鉢または小壺である。199は体部破片で、内外面に鉛釉を施す。200と201は底部破片で、内外面に鉛釉を施し、底外面に回転糸切り痕が残る。202は擂鉢である。内外面に鉛釉を施す。

203は寛永通寶である。直径2.3cm、厚さ0.99mmを測り、重さ1.9gを量る。腐食が激しい。

第4章 まとめ

調査で得られた見解を整理しまとめにかえたい。

1. 調査区を流れる流路を確認した。西から流れるSD01と南から流れるSD02の2本の流路が合流して北方へ流れしていく。自然堆積の状況と遺物の出土状況から考えると、おそらく中世を主体とする流路で、14～15世紀以降に自然堆積が進行していき、近世に入る頃には完全に埋没したと推測される。この流路は現在の紅谷川、野手川の旧河道の可能性が考えられる。
2. I地区北側に広がる湿地帯を確認した。図版3の1947年撮影の空中写真では、この湿地帯が埋め立てられて水田として利用されている様子が判別でき、調査で検出された範囲ともほぼ合致している。この写真を見ると、紅谷川が現在や近代の河道よりも広い幅を持ち低湿地帯を形成していたと考えられる。また一方、後述する中世の流路SD01・SD02の痕跡は写真からは確認できない。おそらく湿地帯は、SD01・SD02に代わる紅谷川の旧河道で、近代までには開拓されていたのだろう。
3. その他遺構としては、溝、土坑、小穴を検出した。出土遺物から古代から近世までの時期幅がある。建物跡など集落の存在をうかがわせるような遺構は確認していない。
4. 遺物は、須恵器、珠洲焼を中心として古代から近世にいたる長期間のものが出土しているが、流路の流れに伴うものや開拓・土地改良に伴って二次的に埋没したものが多く、遺跡自体の年代を直接示すものとはいえない。年代の判別できるものとしては、須恵器は8世紀代、珠洲焼は吉岡編年でI期からV期までのものが出土している。また少量であるが貿易陶磁や瀬戸美濃も確認できる。
5. 鞍川とは紅谷川を挟んで北側に位置する近世の大野新村（現在の大野、大野新）は、元和2年（1616年）に上田村の鎌仲庄八郎が藩の許可を得て開拓した上地である。開拓前には下庄村という村があり、周辺には未開墾地が広がっていたという（『上庄村史』）。第3図は、寛政12年（1800年）に作成された射水郡横田村下右衛門組大野新村内検地領絵図である。この絵図には、紅谷川を越えた鞍川村の領地内に人野新村の飛地が多数描かれており、寛政12年当時の人野新村の範囲を示している。絵図からは、本遺跡の西側に近接して大野新村領があったことがわかる。その地は元和2年以降に開発され、それ以前は未開墾地だった可能性が高いが、では本遺跡はどうだったのだろうか。今回の調査の成果から明確な生活の痕跡を見出すことは難しい。しかしそれは調査対象地の大部分を流路が占めていたということが大きく、この場所が未開墾の荒地であったとするには根拠が乏しい。中世以前にこの周辺の土地がどういう利用をされてきたのか、今後の課題としたい。



第3図 射水郡横田村十右衛門組大野新村内検地領絵図

寛政12年（1800） 高樹文庫 新湊市博物館

寛政12年、和算家・測量家の石黒信由を中心となって測量が行われた。彩色されている部分が村領で、泉、加納、鞍川村地内に多数の飛地があることがわかる。

表2 遺構計測表(1) 土坑

No.	地区	整坪No.	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SK01	I	I-SK01	(704.0)	(682.0)	16.0		SK01 < SD05
SK02	I	I-SK02	498.0	280.0	17.0	須恵1	
SK03	I	I-SK03	177.0	120.0	9.0		
SK04	II	II-SK01	106.0	93.0	32.0		
SK05	II	II-SK02	[59.0]	135.0	51.0		
SK06	II	II-SK03	(212.0)	126.0	34.0	中世土師1	SK05 > SD12
SK07	II	II-SK03-2	77.0	68.0	15.0		SK06 > SK07
SK08	II	II-SK04	160.0	85.0	38.0	土師質鉢2	SK07 < SK06
SK09	II	II-SK05	177.0	80.0	18.0	中世土師1	
SK10	II	II-SK06-1	(133.0)	115.0	17.0		SK10 < SD01
SK11	II	II-SK07	(551.0)	(368.0)	29.0		
SK13	III	III-SK04	216.0	165.0	53.0	須恵1[床脚]中世土師3[中層]近世磁器1[近世]鐵器1[斧]	旧河道 > SK13 > SP121
SK14	III	III-SK05	135.0	103.0	33.0		
SK15	III	III-SK06	194.0	109.0	22.0		
SK16	III	III-SK07	100.0	73.0	22.0	須恵1	SK16 > SP97
SK17	III	III-SK08	91.0	60.0	25.0		
SK18	III	III-SK09	181.0	118.0	11.0		SK18 > SD15
SK19	III	III-SK10	103.0	47.0	15.0		
SK20	III	III-SK11	121.5	79.0	16.0		
SK21	III	III-SK12	89.0	49.0	13.0		SK21 > 深地帯
SK22	III	III-SK13	148.0	56.0	10.0		SK22 > 深地帯
SK23	III	III-SK14	99.0	[44.0]	25.0		
SK24	IV	IV-SK02	277.0	[107.0]	17.0		
SK25	IV	IV-SK07	130.0	49.0	18.0	中世土師1	
SK26	IV	IV-SK08	152.0	82.0	6.0		
SK27	IV	IV-SK09	84.0	47.0	5.0		
SK28	IV	IV-SK10	113.0	54.0	5.0		
SK29	IV	IV-SK11	(426.0)	338.0	12.0		
SK30	II	II-SD02-1	104.0	87.0	53.0		SK30 > SD02
欠番	IV	IV-SK01	-	-	-		
欠番	IV	IV-SK05	-	-	-		

表3 遺構計測表(2) 流路・溝

報告No.	地区	整坪No.	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SD01	I・II	I-SD01・II-SD01	(2100.0)	(700.0)	82.0	珠洲2中世土師1萬中壺1	SD02-SD01 > SK10
SD02	II	II-SD02	(2600.0)	(700.0)	73.0	古代土師1珠洲9中世土師7	SD01-SD02 < SD12 +SD13・SK30・SP63
SD01-02	I・II	I-SD01-1・II-SD01 ・II-SD02	-	-	-	須恵1珠洲3中世土師1	
SD03	I	I-SD04	391.0	85.0	10.0		
SD04	I	I-SD10	107.0	28.5	6.0		
SD05	I	I-SD06	(452.0)	25.0	5.0		SD06 > SD05 > SK01
SD06	I	I-SD07	37.5	9.0	5.0		SD06 > SD05
SD07	I	I-SD05	290.0	38.0	11.0		
SD08	I	I-SD03	(682.0)	68.0	24.0	中世土師2	
SD09	I	I-SD08	(419.0)	179.0	8.0		
SD10	I	I-SD02	(884.0)	93.0	11.0		
SD11	I・II	I-SD09・II-SD05	456.0	49.5	13.0		
SD12	II	II-SD03	(446.0)	70.0	41.0	須恵1中世土師3近世磁器1 焼粘土塊1	SK05 > SD12 > SD02
SD13	II	II-SD04	(470.0)	69.0	25.0	近世磁器1	SD13 > SD02
SD14	III	III-SD13	(650.0)	(134.0)	49.0	須恵1古代土師2燒粘土塊1	
SD15	III	III-SD14	(485.0)	118.5	49.0		聖地帯・SD15 < SK18
SD16	III	III-SD15	215.0	26.0	8.0	土膏油片1	
SD17	IV	IV-SK03	386.0	(82.0)	46.0	萬中壺2中世土師2近世磁器3	
SD18	IV	IV-SK06	159.0	(76.0)	38.0	須恵1	
SD19	IV	IV-SK04	438.0	(66.0)	26.0	珠洲1十器碎片1近世磁器1	
旧河道	IV	III-SD11・IV-SD11	-	-	-	須恵1古代土師1珠洲4中世 土師2	遺物は土地改軸に伴う 2次的な埋没
欠番	III	III-SD01	-	-	-		
欠番	IV	IV-SD01	-	-	-		
欠番	III	III-SD12	-	-	-		

※報告No.は報告書中の遺構No.、整理No.は発掘調査・整理作業中の遺構No.

※()は現存値・検出値

※遺構の切り合いは「新>古」で表記した。

表4 遺構計測表(3) 小穴

No.	地区	整理No.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SP01	I	I-SP01	(54.0)	46.5	8.0		SP01 < SP02
SP02	I	I-SP02	34.0	23.0	7.0		SP02 > SP01
SP03	I	I-SP03	49.0	35.0	11.0		
SP04	I	I-SP04	44.0	48.0	8.0		
SP05	I	I-SP05	29.0	27.0	6.0		
SP06	I	I-SP06	19.0	18.0	8.0		
SP07	I	I-SP07	67.0	46.5	6.0		
SP08	I	I-SP08	52.0	21.0	4.0		
SP09	I	I-SP09	25.0	17.5	5.0		
欠番	I	I-SP10	-	-	-		
SP11	I	I-SP11	19.5	20.0	6.0		
SP12	I	I-SP12	32.5	22.5	7.0		
SP13	I	I-SP12-2	45.0	45.0	10.0		
SP14	I	I-SP14	61.5	21.0	7.0		
SP15	I	I-SP15	22.0	17.0	7.0		
SP16	I	I-SP16	46.0	23.0	8.0		
SP17	I	I-SP17	68.5	55.0	6.0		
SP18	I	I-SP18	40.0	18.5	4.0		
SP19	I	I-SP19	27.0	26.0	6.0		
SP20	I	I-SP20	45.0	22.0	4.0		
SP21	I	I-SP21	35.0	15.0	6.0		
欠番	I	I-SP22	-	-	-		
SP23	I	I-SP23	45.5	24.0	7.0		
SP24	I	I-SP24	31.0	21.0	4.0		
SP25	I	I-SP25	31.0	33.0	7.0		
SP26	I	I-SP26	49.0	31.0	5.0		
SP27	I	I-SP27	32.0	27.0	9.0		
SP28	I	I-SP28	31.5	18.5	5.0		
SP29	I	I-SP29	15.5	14.5	5.0		
SP30	I	I-SP30	17.0	15.0	3.0		
SP31	I	I-SP31	25.0	17.0	9.0		
SP32	I	I-SP32	19.0	15.5	5.0		
SP33	I	I-SP33	36.5	20.0	8.0		
SP34	I	I-SP34	36.0	30.0	7.0		
SP35	I	I-SP35	35.0	27.5	7.0		
SP36	I	I-SP36	11.5	15.0	4.0		
SP37	I	I-SP37	47.0	29.0	4.0		
欠番	I	I-SP38	-	-	-		
SP39	I	I-SP39	38.0	28.0	5.0		
SP40	I	I-SP40	19.0	18.0	2.0		
SP41	I	I-SP41	116.0	73.0	4.0		
SP42	I	I-SP42	22.0	15.0	4.0		
SP43	I	I-SP43	39.0	27.0	4.0		
SP44	I	I-SP44	66.0	20.0	5.0		炭化物多く含む。SP44 > SP56
SP45	I	I-SP45	48.0	48.0	7.0		
SP46	I	I-SP46	25.0	21.0	3.0		
SP47	I	I-SP47	39.5	29.0	5.0		
SP48	I	I-SP48	73.0	42.0	6.0		
SP49	I	I-SP49	48.0	36.0	5.0		
SP50	I	I-SP50	54.5	45.0	7.0		
SP51	I	I-SP51	81.0	46.0	4.0		
SP52	I	I-SP52	66.0	11.0	8.0		
SP53	I	I-SP53	28.0	24.0	5.0		
SP54	I	I-SP54	72.0	31.0	8.0		
SP55	I	I-SP55	85.0	57.5	13.0		
SP56	I	I-SP56	81.0	39.0	4.0		SP56 < SP44
SP57	II	II-SP01	38.0	25.5	26.0		
SP58	II	II-SP02	39.0	20.0	24.0		
SP59	II	II-SP03	19.0	18.0	14.0		
SP60	II	II-SP04	74.0	42.5	8.0		
SP61	II	II-SP05	51.0	42.5	10.0		
SP62	II	II-SP06	47.0	27.0	7.0		
SP63	II	II-SP07	27.5	26.0	22.0	近現代遺物	SP63 > SP02
SP64	II	II-SP08	61.5	40.5	8.0		
SP65	II	II-SP09	33.0	27.0	5.0		
SP66	II	II-SP10	40.0	23.0	14.0		
SP67	II	II-SP11	19.0	16.0	16.0		
SP68	II	II-SP12	28.0	20.0	17.0		
SP69	II	II-SP13	43.0	25.0	9.0		
SP70	II	II-SP14	33.0	18.5	7.0		
SP71	II	II-SP15	49.0	29.5	12.0		
SP72	II	II-SP16	77.0	59.0	16.0		SP72 > SP73
SP73	II	II-SP17	42.0	(38.0)	12.0		SP73 < SP72
SP74	II	II-SP18	50.0	42.0	13.0		

No.	地区	整理No.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SP75	II	II-SP19	75.5	54.0	17.0		
SP76	II	II-SP20	56.0	45.0	7.0		
SP77	II	II-SP21	54.0	33.0	19.0		
SP78	II	II-SP22	62.5	45.0	9.0		
SP79	II	II-SP23	48.0	32.0	12.0		
SP80	II	II-SP24	26.0	18.0	7.0		
SP81	II	II-SP25	52.0	22.0	5.0		
SP82	II	II-SK06-2	99.0	44.5	6.0		
SP83	II	II-SP27	29.0	22.0	6.0		
SP84	II	II-SP28	44.0	43.0	9.0		
SP85	II	II-SP29	82.0	48.0	16.0		
SP86	II	II-SP30	38.0	29.0	16.0		
SP87	II	II-SP31	50.0	29.0	5.0		
SP88	II	II-SP32	50.0	29.0	9.0		
SP89	II	II-SP33	24.0	17.5	12.0		
SP90	II	II-SP34	108.0	64.0	7.0		
SP91	II	II-SP35	68.0	50.0	8.0		
SP92	III	III-SP01	26.0	25.0	7.0		
SP93	III	III-SP02	27.0	20.5	8.0		
SP94	III	III-SP03	17.0	(12.0)	6.0		
SP95	III	III-SP04	25.0	(18.0)	26.0		
SP96	III	III-SP05	34.0	(13.5)	27.0		
SP97	III	III-SP06	(28.0)	45.0	11.0	SP97<SK16	
SP98	III	III-SP07	47.0	16.0	7.0		
SP99	III	III-SP08	35.5	23.0	9.0		
SP100	III	III-SP09	25.0	20.0	5.0		
SP101	III	III-SP10	26.0	26.0	6.0		
SP102	III	III-SP11	26.0	21.5	7.0		
SP103	III	III-SP12	37.0	24.0	9.0		
SP104	III	III-SP13	22.5	16.0	2.5		
SP105	III	III-SP14	33.5	32.0	33.0		
SP106	III	III-SP15	30.0	26.0	11.0		
SP107	III	III-SP16	27.5	19.5	21.0		
SP108	III	III-SP17	33.0	36.0	25.0		
SP109	III	III-SP18	22.0	20.0	22.0		
SP110	III	III-SP19	28.5	16.0	12.0		
SP111	III	III-SP20	27.0	23.0	45.0		
SP112	III	III-SP21	37.5	25.0	6.0		
SP113	III	III-SP22	33.0	27.0	31.0		
SP114	III	III-SP23	19.0	13.0	4.0		
SP115	III	III-SP24	23.5	14.0	7.0		
SP116	III	III-SP25	49.5	26.5	7.0		
火薬	III	III-SP26					
SP118	III	III-SP27	47.5	27.5	8.0		
SP119	III	III-SP28	60.0	53.5	17.0	陶器1	
SP120	III	III-SP29	26.0	21.0	6.0		
SP121	III	III-SP30	(33.5)	54.0	19.0	SP121<SK13	
SP122	III	III-SP31	56.0	36.0	13.0		
SP123	III	III-SP32	42.0	19.0	7.0		
SP124	III	III-SP33	37.0	25.0	6.0		
SP125	III	III-SP34	26.0	22.0	43.0		
SP126	III	III-SP35	24.0	22.0	23.0		
SP127	III	III-SP36	19.0	14.0	27.0		
SP128	III	III-SP37	24.0	23.0	8.0		
SP129	III	III-SP38	40.0	32.0	12.0		
SP130	III	III-SP39	22.0	21.0	8.0		
SP131	III	III-SP40	28.5	22.0	21.0		
SP132	III	III-SP41	21.0	20.0	6.0		
SP133	III	III-SP42	42.5	21.0	7.0		
SP134	IV	IV-SP01	113.5	58.0	32.0		
SP135	IV	IV-SP02	34.0	31.0	6.0		
SP136	IV	IV-SP03	49.0	39.5	3.0		
SP137	IV	IV-SP04	28.0	21.0	6.0		
SP138	IV	IV-SP05	28.0	21.0	6.0		
SP139	IV	IV-SP06	27.5	21.0	7.0		
SP140	IV	IV-SP07	25.0	17.0	9.0		
SP141	IV	IV-SP15	42.0	31.0	10.0		
SP142	IV	IV-SP09	28.0	24.0	19.0		
SP143	IV	IV-SP10	38.0	30.0	6.0		
SP144	IV	IV-SP11	23.0	18.0	4.0		
SP145	IV	IV-SP12	31.0	25.0	7.0		
SP146	IV	IV-SP13	34.0	29.0	6.0		

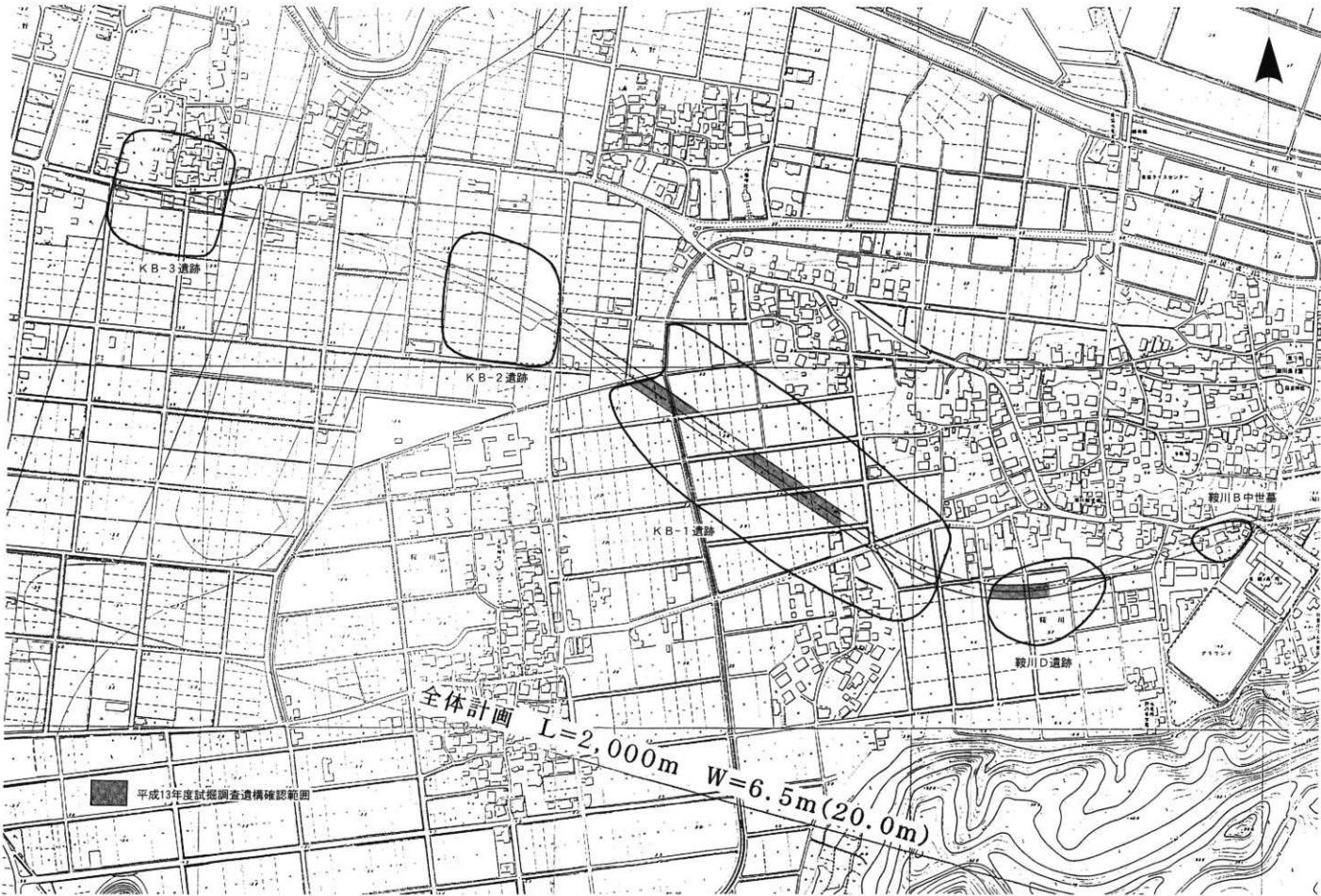
整理No.は現行、番号中の番号No.は発掘調査・整理作業中の遺構No。

() は残存構・検出物

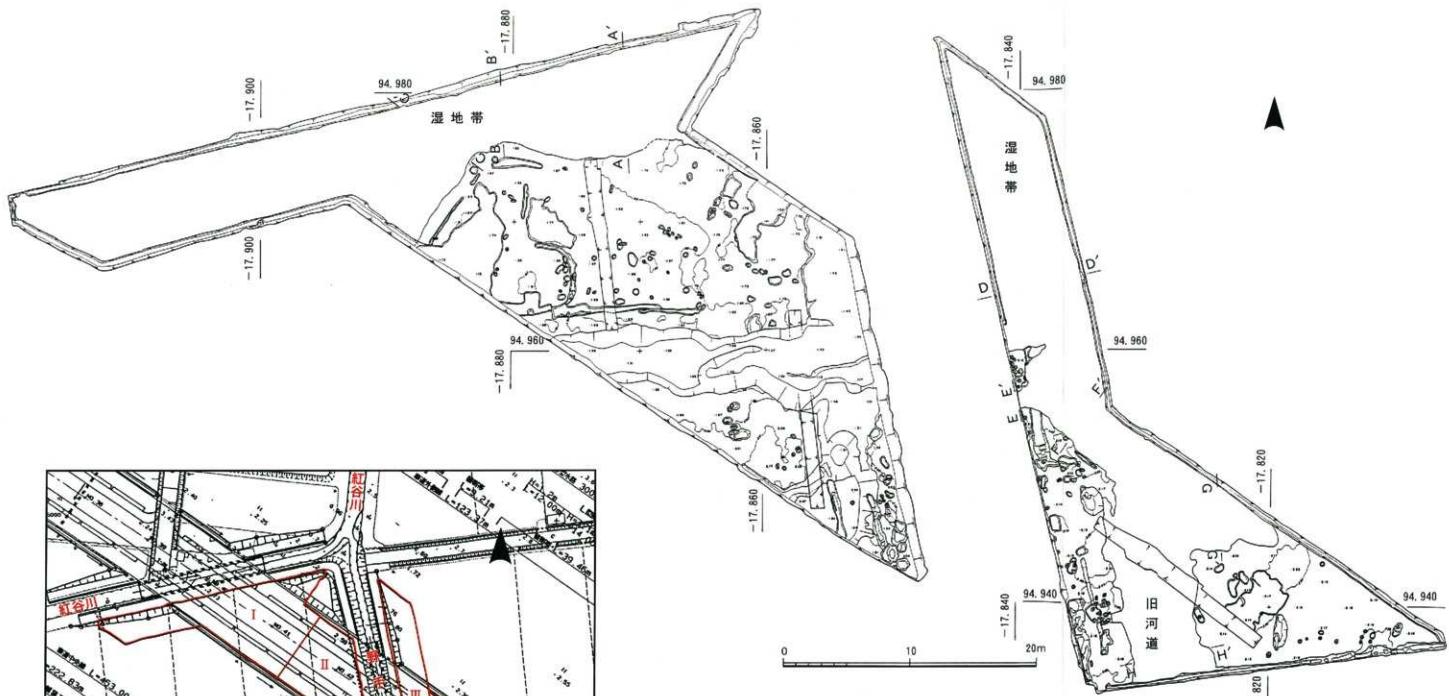
考古構の切り合は「新>古」で表記した。

引用・参考文献

- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』 考古学ライブラリー55 ニューサイエンス社
- 加納史話編集委員会 1970 『加納史話』
- 上庄村史編纂委員会 1963 『上庄村史』
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念－』
- 瀬戸市史編纂委員会 1981 『瀬戸市史』 陶磁史篇 二
- 瀬戸市埋蔵文化財センター 『研究紀要』 第5号
- 中世土器研究会編 1995 『概説 中世の上器・陶磁器』 真陽社
- 富山県 1954 『泉宮上庄川沿岸用水補給事業 事業誌』
- 富山県文化振興財団 1996 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』 埋蔵文化財発掘調査報告第7集
- 富山県文化振興財団 2002 『能越自動車道関連 埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告』 埋蔵文化財発掘調査報告第16集
- 日本貿易陶磁研究会 1998 『貿易陶磁研究』 第1号－第5号（合本）復刻版 六一書房
- 水見市 1963 『水見市史』
- 水見市 1972 『水見百年史』
- 水見市 1999 『水見市史』 9 資料編7 自然環境
- 水見市 2000 『水見市史』 6 資料編4 民俗、神社・寺院
- 水見市 2002 『水見市史』 7 資料編5 考古
- 水見市 2004 『水見市史』 8 資料編6 絵図・地図
- 水見市教育委員会 2002 『水見市埋蔵文化財分布調査報告（丘陵地区）Ⅱ』 水見市埋蔵文化財調査報告第35冊
- 水見市教育委員会 2003 『水見市埋蔵文化財分布調査報告（丘陵地区）Ⅲ』 水見市埋蔵文化財調査報告第39冊
- 水見市教育委員会 2003 『図説 水見の歴史・民俗』
- 水見市立博物館 2003 『写真にみる水見の昔と今』
- 北陸中世土器研究会編 1997 『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』 桂書房
- 細辻真澄 2001 『任海宮田遺跡出土の土鍤について』 『紀要 富山考古学研究』 第4号 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 宮田進一 1988 『越中瀬戸の窯資料（1）』 『大境』 第12号 富山考古学会
- 宮田進一 1997 『越中瀬戸の変遷と分布』 『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』 桂書房
- 森隆 2001 『富山県出土の土鍤集成』 『紀要 富山考古学研究』 第4号 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

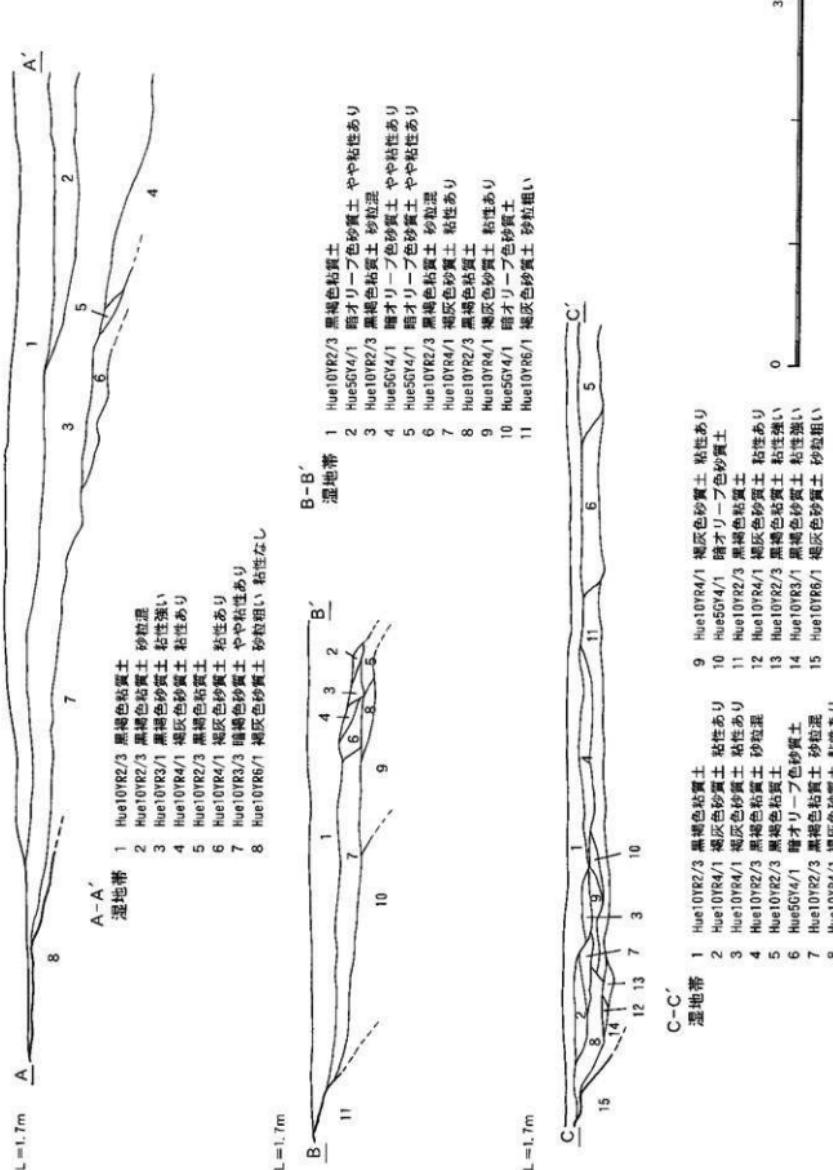


第4図 犬川バイパス試掘調査対象遺跡位置図 (S = 1 / 5,000)

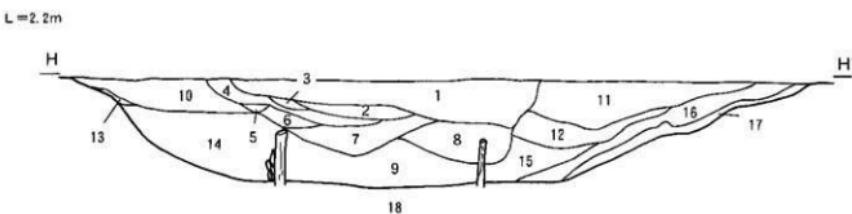
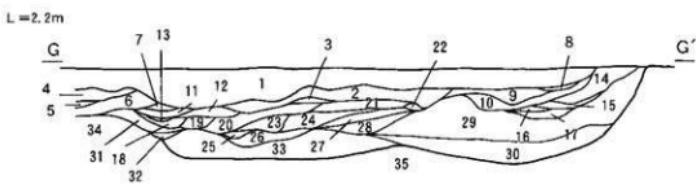
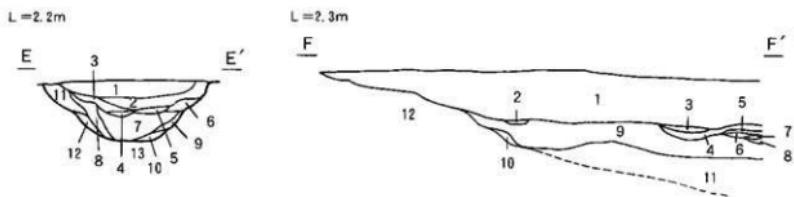
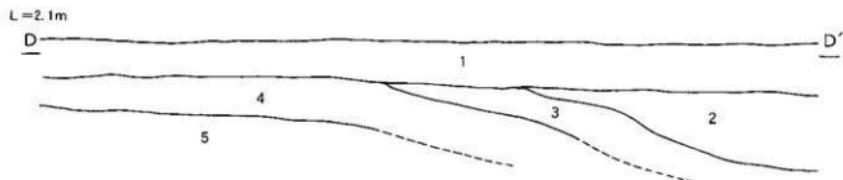


第6図 稲川中A遺跡調査区位置図 (S = 1 / 1,000)

第5図 稲川中A遺跡調査区全体図 (S = 1 / 300)

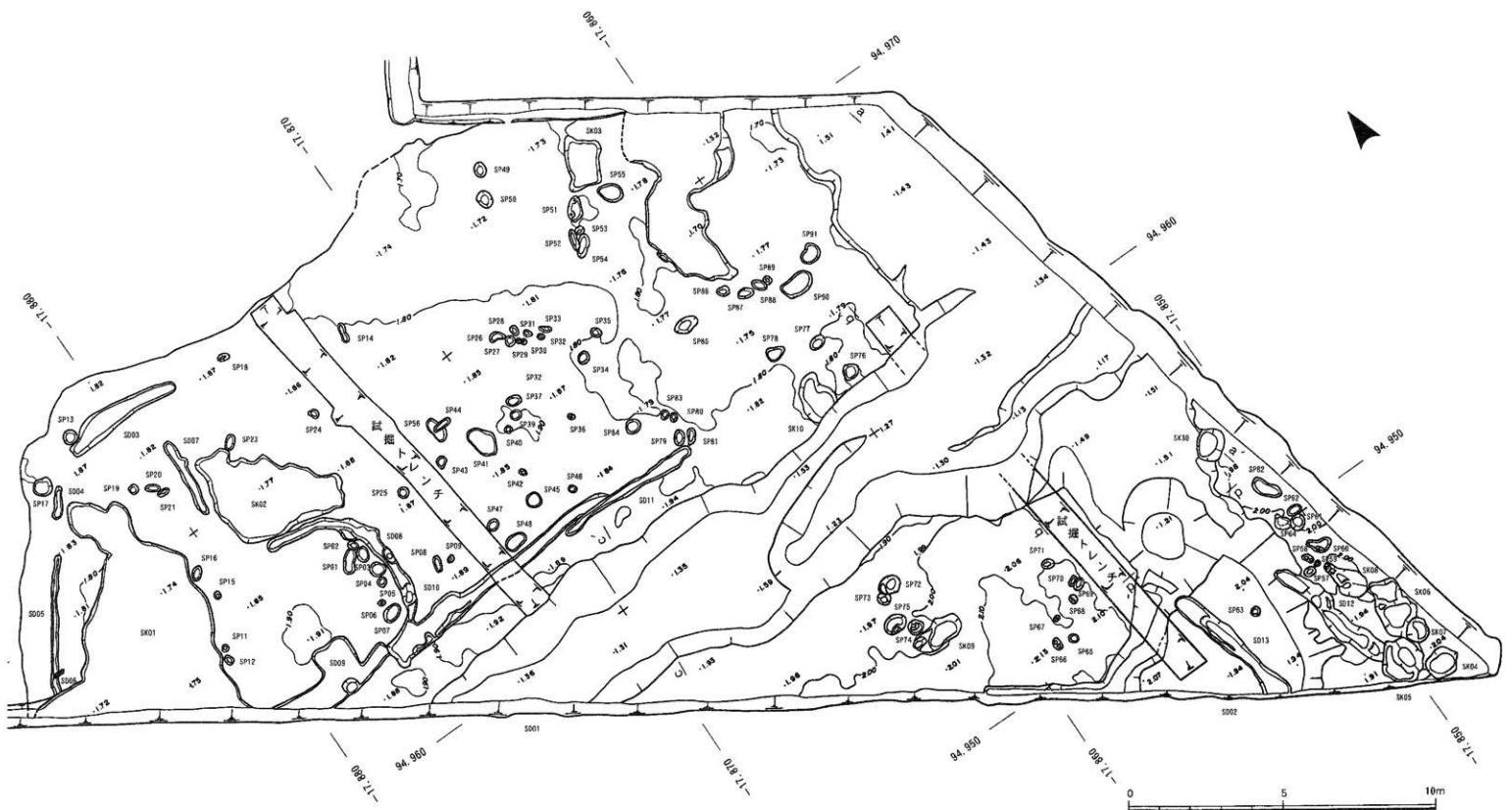


第7図 造構実測図(1) I地区湿地帯 (S = 1 / 40)

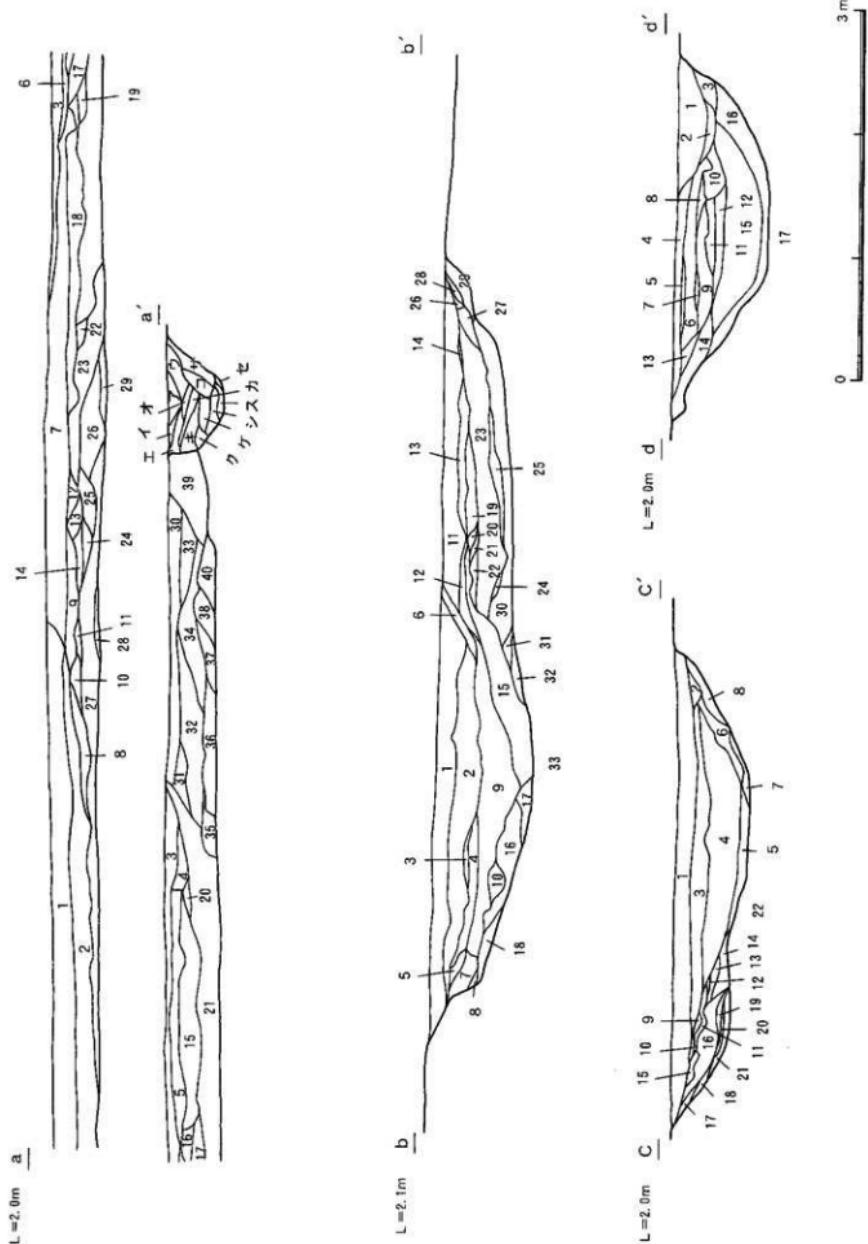


0 3 m

第8図 遺構実測図(2) III・IV地区湿地帯・近現代河道 ($S = 1 / 40$) 土層は表5に一覧として掲載した。

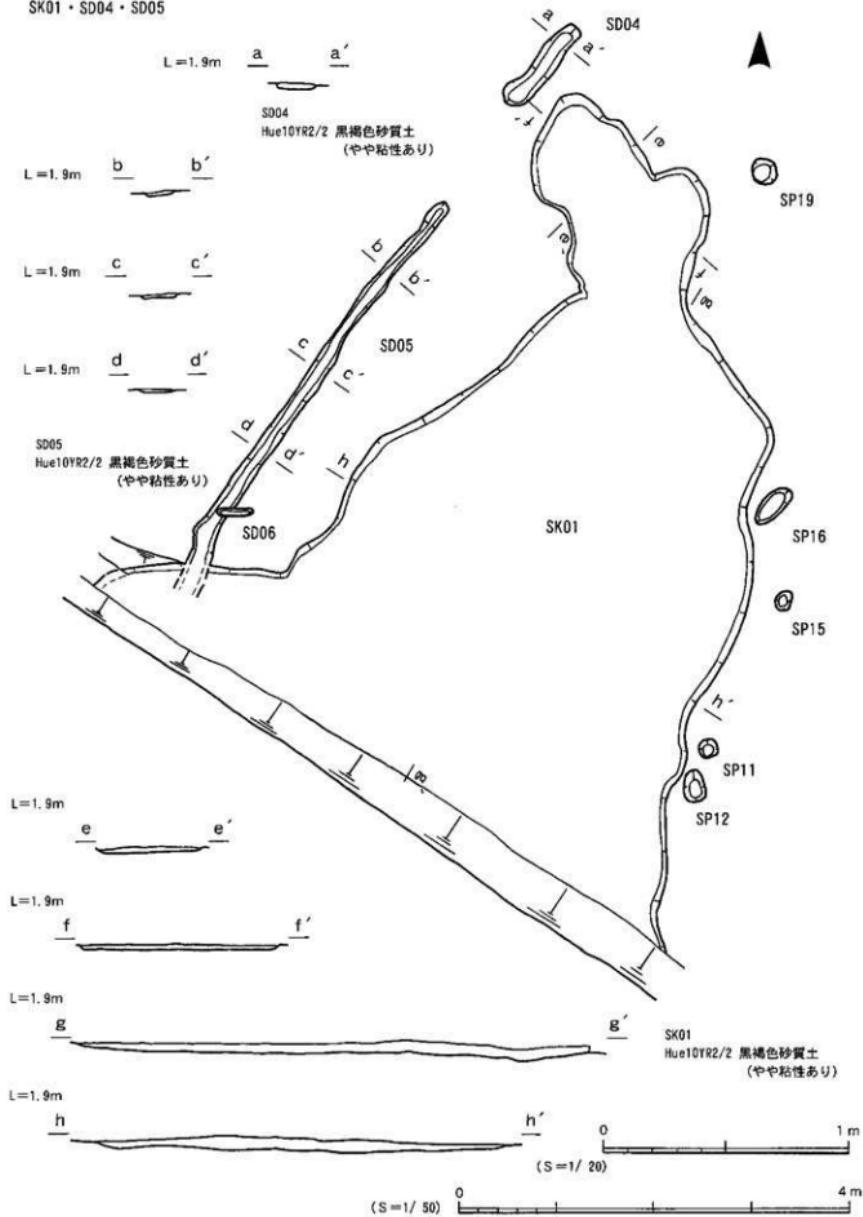


第9図 I・II地区 遺構配置図 (S = 1 / 120)



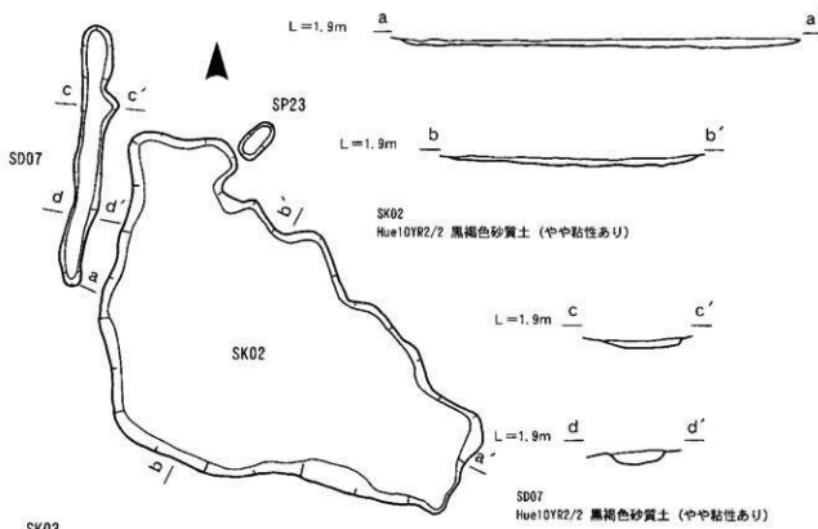
第10図 遺構実測図(3) SD01・SD02 ($S = 1/40$) 土層は表5に一覧として掲載した。

SK01 + SD04 + SD05

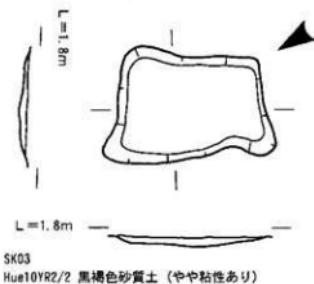


第11図 遺構実測図(4) SK01 + SD04 + SD05 平面図($S = 1/50$)・断面図(a-a'・b-b'・c-c'・d-d'は $S = 1/20$, e-e'・f-f'・g-g'・h-h'は $S = 1/50$)

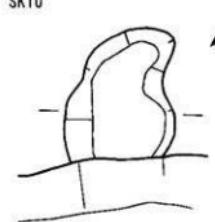
SK02・SD07



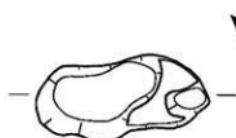
SK03



SK10



SK09



L = 1.8m

SK10

- 1 Hue10YR3/2 黒褐色シルト
- 2 Hue10YR3/1 黒褐色砂質土 ややシルト
- 3 Hue10YR6/2 灰黄褐色砂、黒褐色シルト混

L = 2.2m

SK09
Hue2.5Y4/1 黄灰色粘質土

Hue7.5YR6/8 橙色粘質土ブロック少量混

(S = 1 / 50)

(S = 1 / 20)

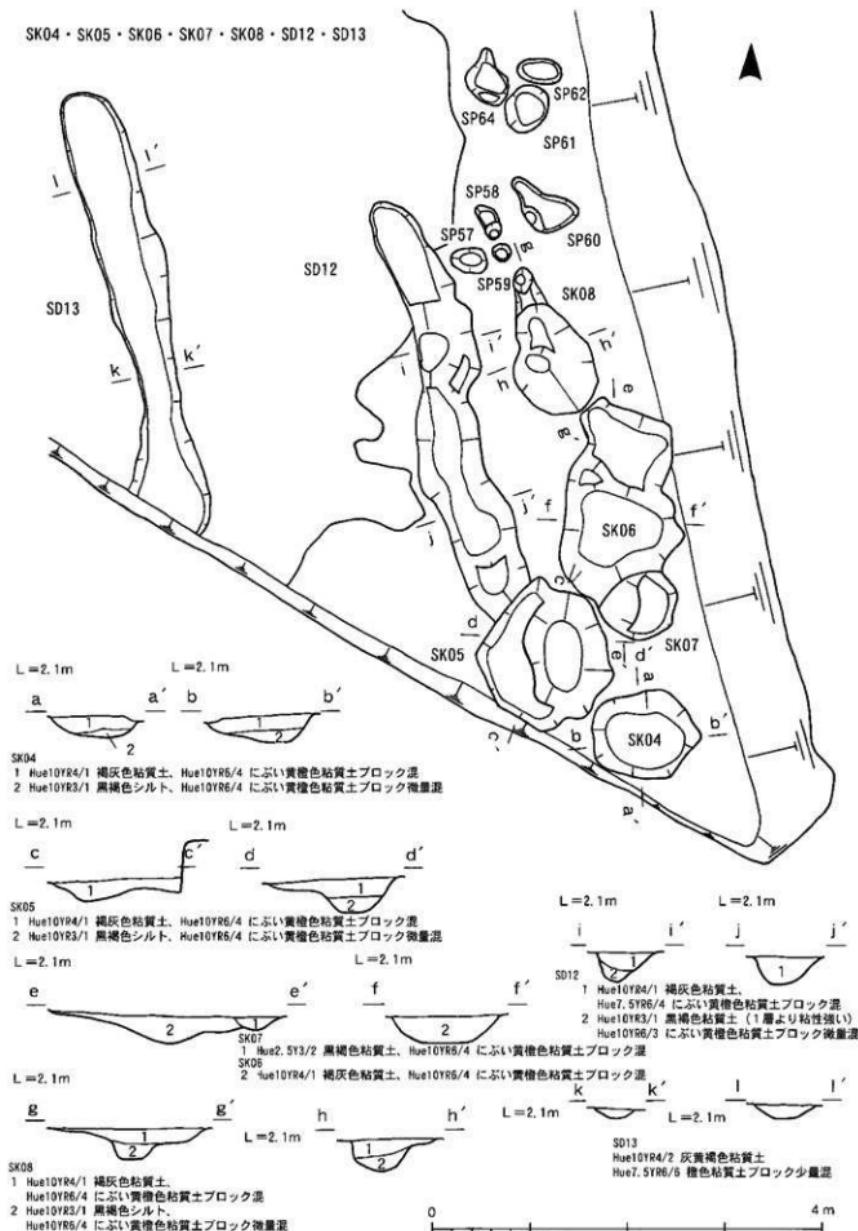
0

1 m

4 m

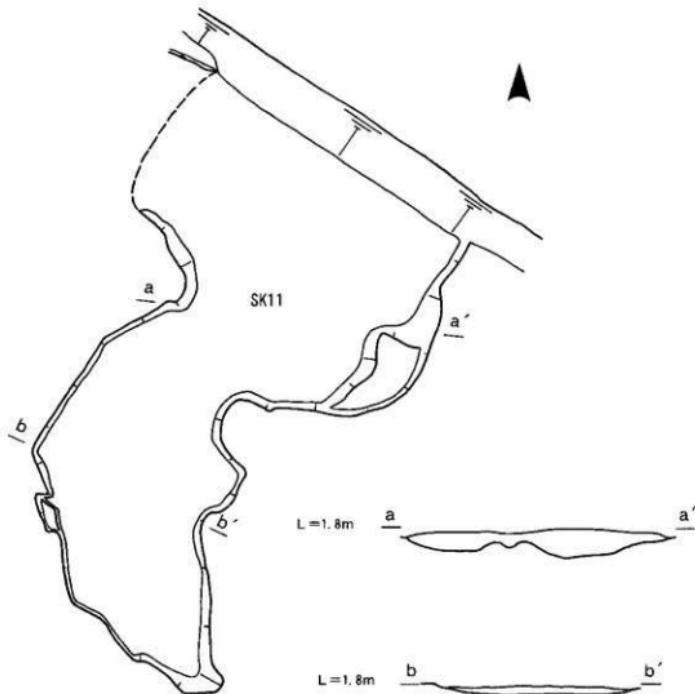
第12図 遺構実測図(5) SK02・SD07・SD03・SK09・SK10 平面図(S = 1 / 50)・断面図(S = 1 / 50, c-c'・d-d'は S = 1 / 20)

SK04・SK05・SK06・SK07・SK08・SD12・SD13



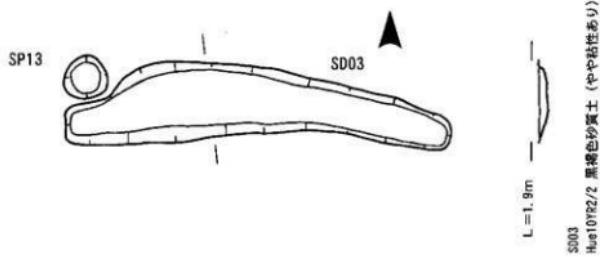
第13図 遺構実測図(6) SK04・SK05・SK06・SK07・SK08・SD12・SD13 平面図・実測図(S = 1 / 50)

SK11



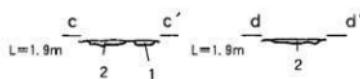
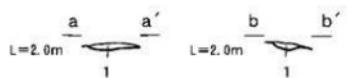
SK11
Hue10YR3/1 黒褐色砂（ややシルト質含む）。Hue10YR5/1褐色砂が
マーブル状に混ざる。

SD03

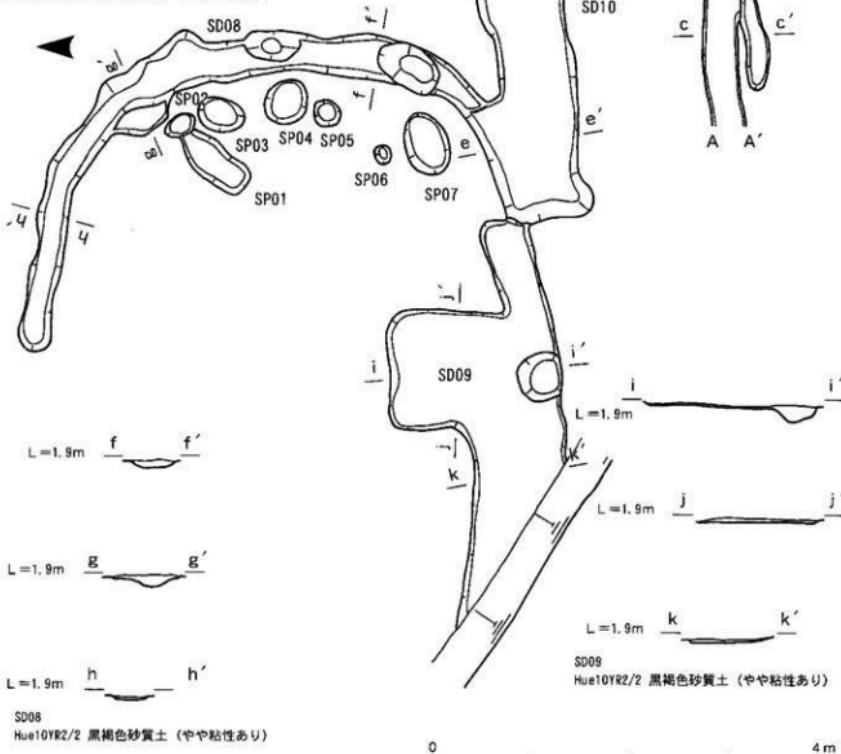


第14図 造構実測図(7) SK11・SD03 平面図・断面図(S = 1 / 50)

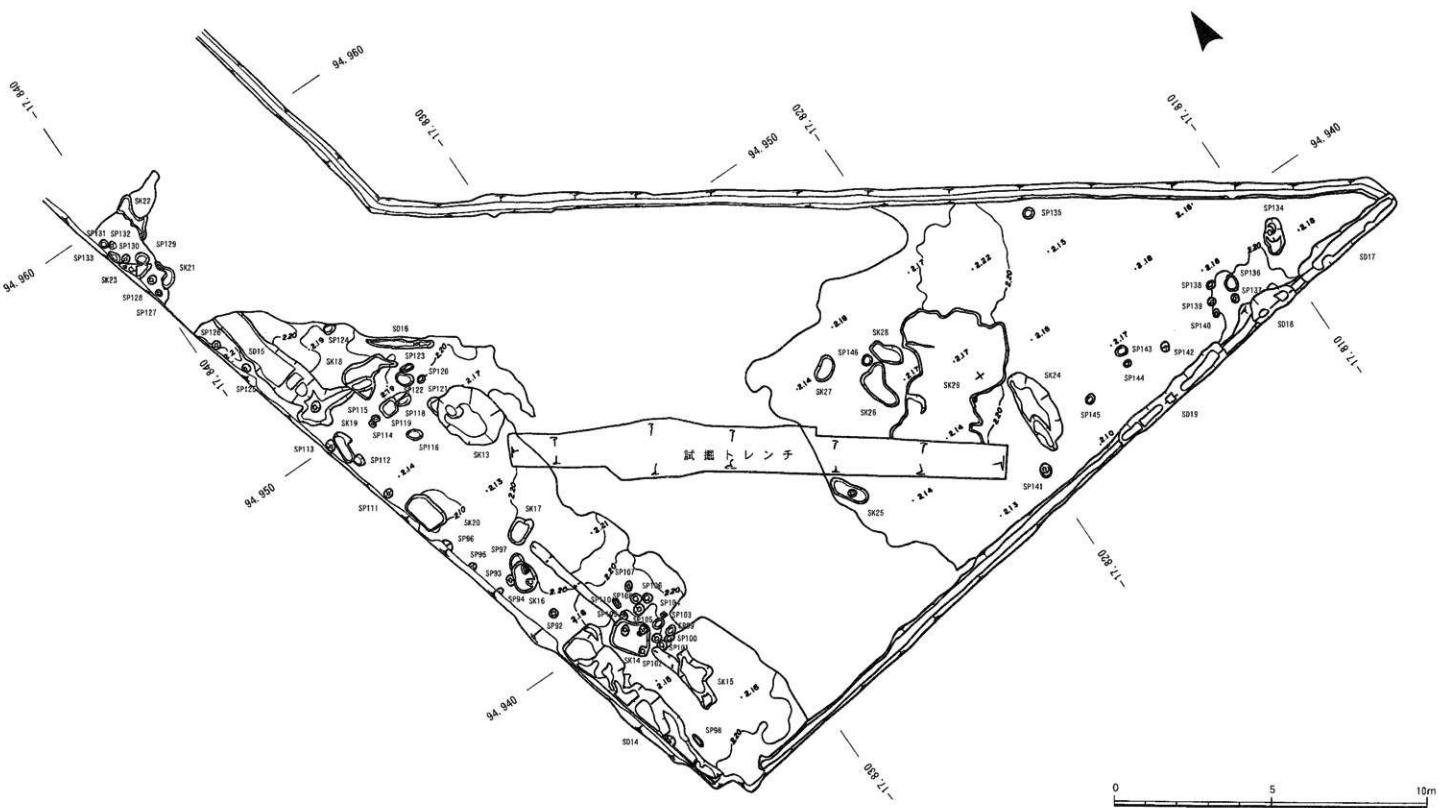
SD08・SD09・SD10・SD11



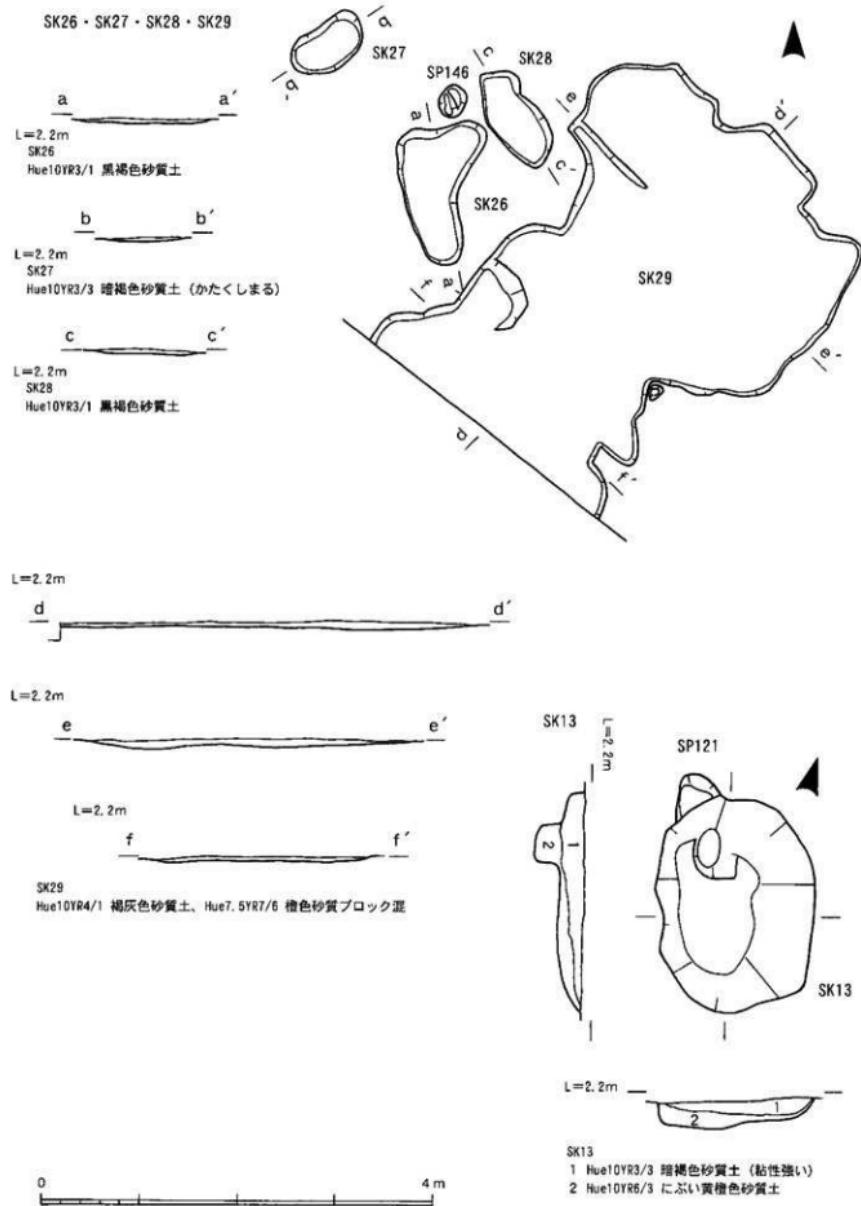
SD11
1 Hue10YR3/1 黒褐色砂質土（かたくしまる）
SD10
2 Hue10YR2/2 黒褐色砂質土（やや粘性あり）



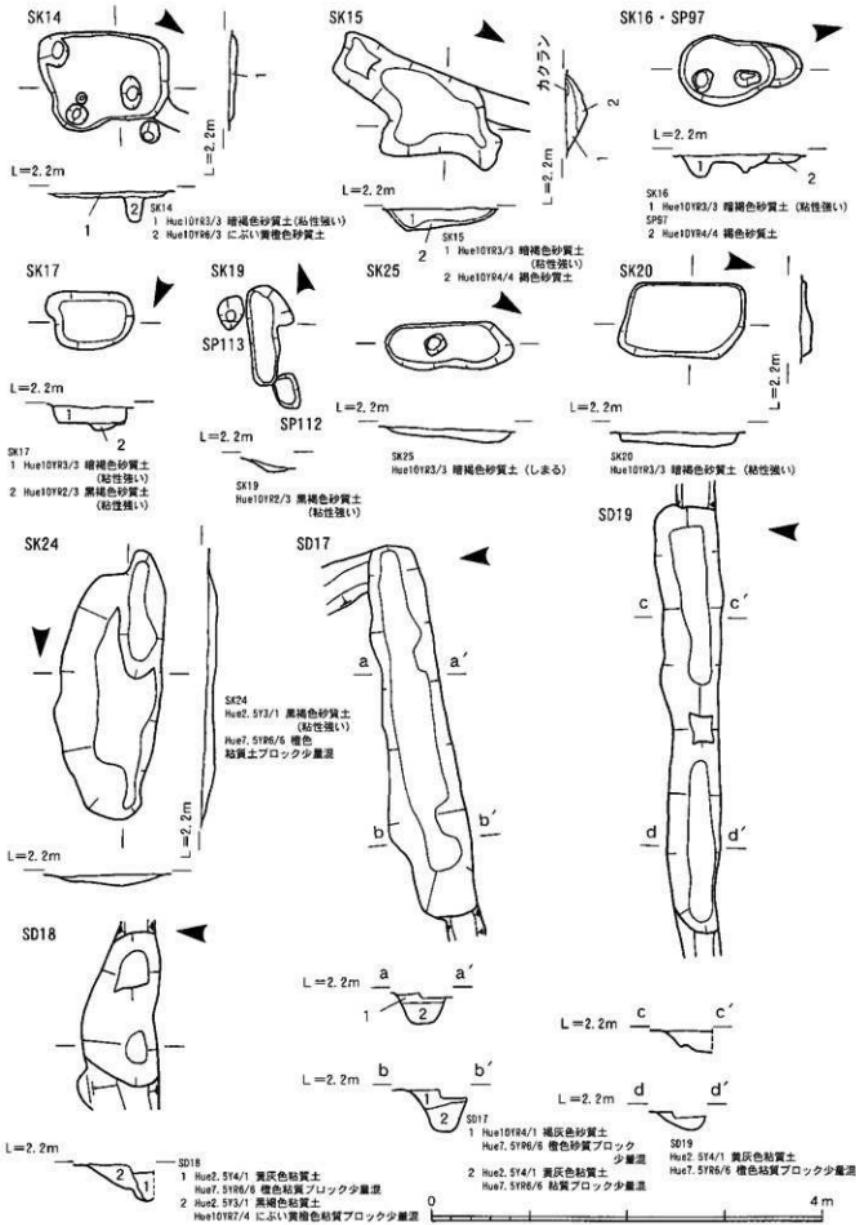
第15図 遺構実測図(8) SD08・SD09・SD10・SD11 半面図・断面図(S = 1 / 50)



第16図 III・IV地区遺構配図 (S = 1 / 120)

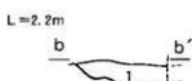
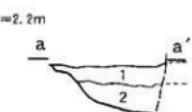
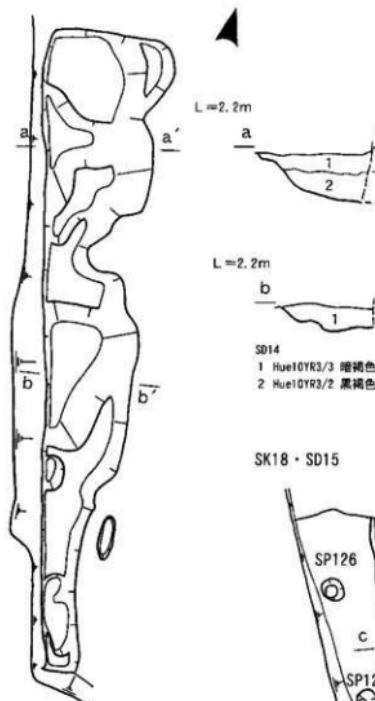


第17図 遺構実測図(9) SK13・SK26・SK27・SK28・SK29 平面図・断面図(S = 1 / 50)



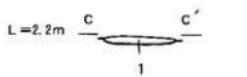
第18図 遺構実測図(10) SK14・SK15・SK16・SK17・SK19・SK20・SK24・SK25・SD17・SD18・SD19 平面図・断面図 (S = 1 / 50)

SD14

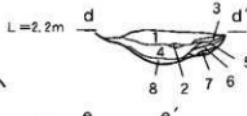


SD14
1 Hue10YR3/3 暗褐色砂質土 (粘性強い)
2 Hue10YR3/2 黒褐色砂質土 (粘性強い)

SD18 + SD15

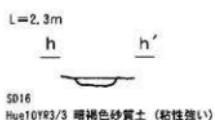
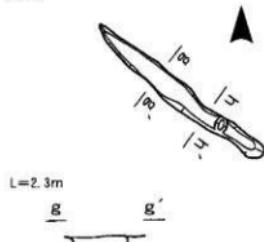


SD15



SD15
1 Hue10YR2/3 黑褐色砂質土 (粘性強い)
2 Hue10YR8/4 にぶい黄褐色砂
3 Hue10Y6/4 にぶい黄褐色砂
4 Hue10YR2/2 黑褐色砂質土 (粘性強い)
5 Hue10YR4/2 灰黄褐色砂
6 Hue10YR2/1 黑褐色砂質土
7 Hue10YR6/3 にぶい黄褐色砂
8 Hue10YR5/3 にぶい黄褐色砂

SD16



SD16
Hue10YR3/3 暗褐色砂質土 (粘性強い)

(S = 1 / 20) 0 1 m 4 m

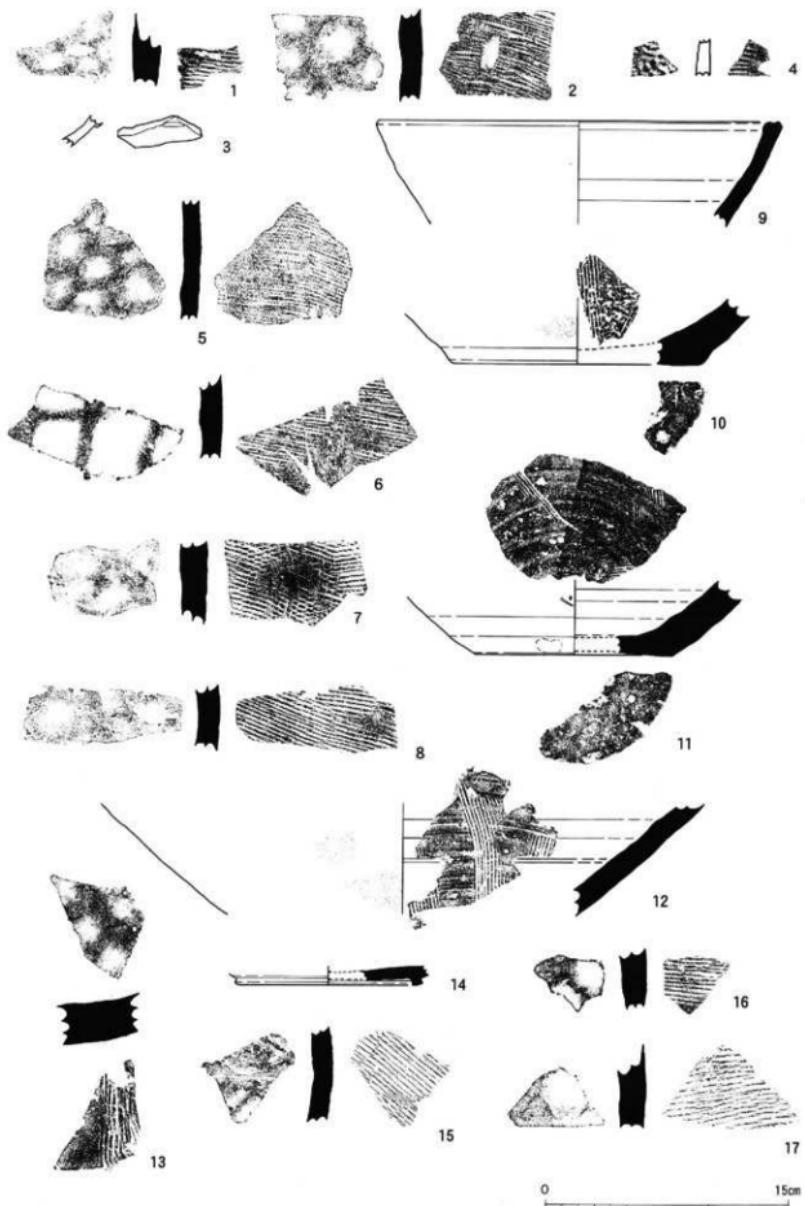
(S = 1 / 50) 0 4 m

第19図 造構実測図(11) SD14 + SD15 + SD16 + SK18 平面図($S = 1 / 50$) + 断面図($S = 1 / 50$,
 $g-g'$, $h-h'$ は $S = 1 / 20$)

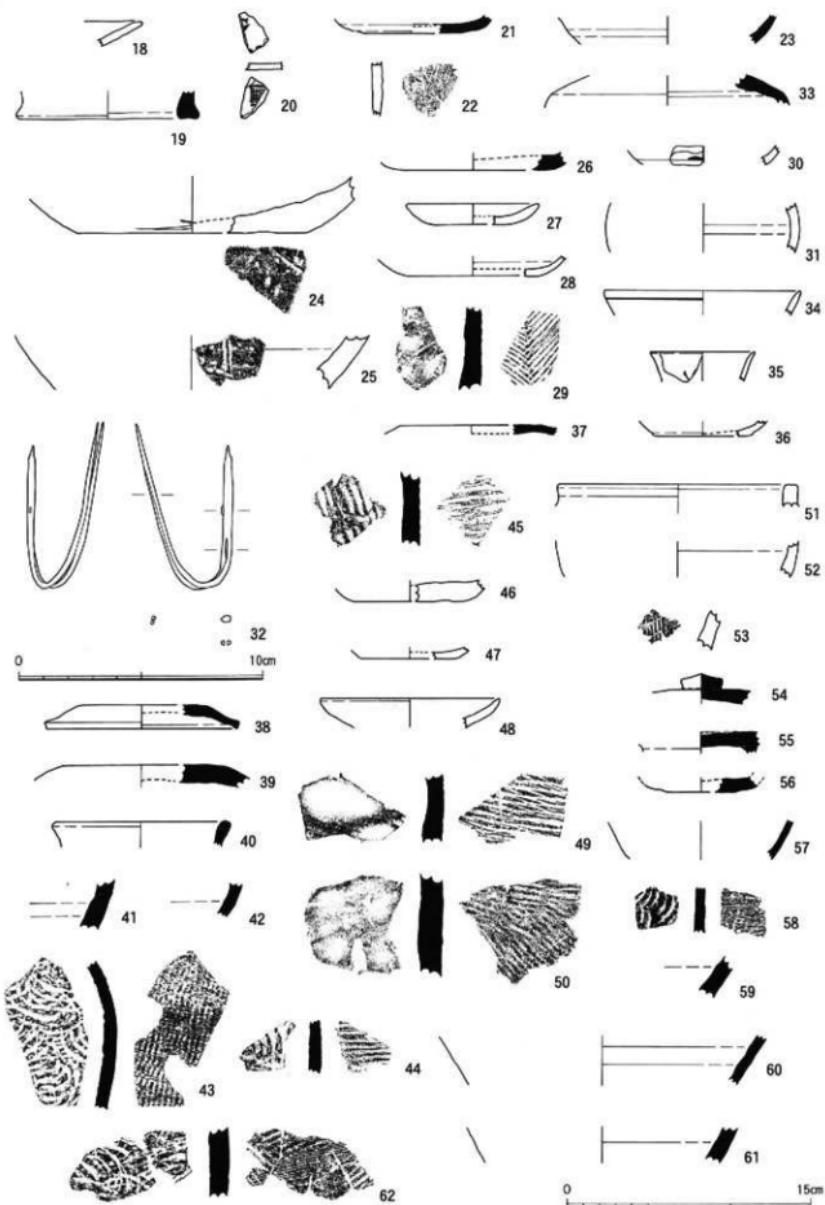
表5 土層一覧（第8図・第10図に対応）

D-D'	海地帯	1 Hue10YR5/6 黄褐色粘質土 2 Hue10YR3/2 黒褐色砂質土 やや粘性あり 3 Hue10YNS/1 黒褐色砂 黑褐色シルト層状に混 4 Hue10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性強い 5 Hue5Y5/1 灰色砂	24 Hue10YR3/2 黒褐色砂質土 砂粒混 25 Hue10YR4/1 橙灰色シルト 砂粒混 26 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 27 Hue10YR4/2 灰黄褐色砂 粘性弱い 28 Hue10YR4/2 灰黄褐色砂 黑褐色シルトブロック混 29 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 ややシルト 塗化物混 30 Hue10YR2/1 黑色シルト 31 Hue10YR4/1 橙灰色砂 黑褐色シルトブロック混 32 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 33 Hue2.5Y3/2 橙褐色砂 黑褐色シルトブロック混
E-E'	海地帯 (底絡)	1 Hue10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性強い 2 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 粘性強い 塗化物混 3 Hue10YNS/1 黑褐色砂 黑褐色シルトマーブル状に混 4 Hue10YR2/2 黑褐色粘質土 5 Hue10YR3/2 黑褐色砂 黑褐色シルトマーブル状に混 6 Hue10YR2/2 黑褐色粘質土 塗化物混 7 Hue10YR2/2 黑褐色粘質土 黑褐色砂マーブル状に混 8 Hue10YR4/1 黑褐色砂 Hue10YR5/1 黑褐色砂混 9 Hue10YR2/2 黑褐色粘質土 地山砂多量混 10 Hue10YNS/2 黑英黒褐色砂 黑褐色シルトマーブル状に混 11 Hue10YR3/1 黑褐色粘質土 粘性強い 12 Hue10YR2/2 黑褐色粘質土 地山砂混 13 Hue10YR3/2 次黃褐色砂	31 Hue10YR4/1 橙灰色砂 黑褐色シルトブロック混 32 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 33 Hue2.5Y3/2 橙褐色砂 黑褐色シルトブロック混
地山	34 上部:Hue10YR5/4 にぶい 黑褐色砂 下部:N4 灰色砂 やや青みがかる		
H-H'	沿河帯	1 Hue10YR5/6 黄褐色砂 黑褐色砂ブロック混 2 Hue10YR4/6 黑褐色砂 黑褐色砂ブロック混 3 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 粘性強い 4 Hue10YR5/2 灰黄褐色砂 黑褐色砂ブロック混 5 Hue10YR5/6 黄褐色砂 黑褐色砂ブロック混 6 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 粘性強い Hue10YR4/1 黑褐色砂質土 ブロック多量混 7 Hue10YR4/1 橙灰色砂 黑褐色砂ブロック混 8 Hue10YR5/2 灰黄褐色砂 黑褐色砂ブロック混 9 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 粘性強い 塗化物混 10 Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 塗化物混 11 Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 塗化物混 12 Hue10YR4/2 灰黄褐色砂質土 塗化物混 13 Hue10YR2/1 黑色粘質土 14 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 粘性強い 塗化物混 15 Hue10YR4/1 黑褐色砂質土 粘性強い 塗化物混 16 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 粘性強い 塗化物混 17 Hue10YR6/3 にい 黄褐色砂 混 黄褐色砂ブロック混	
F-F'	海地帯	1 Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 粘性強い 2 Hue10YR5/1 橙褐色砂 黑褐色砂ブロック混 3 Hue10YR2/1 黑褐色粘質土 4 Hue10YR5/2 灰黄褐色砂 5 Hue10YR3/1 黑褐色粘質土 6 Hue10YR6/2 灰黄褐色砂 黑褐色シルト混 7 Hue10YR3/1 黑褐色粘質土 8 Hue10YR6/2 灰黄褐色砂 9 Hue10YR2/2 黑褐色砂質土 10 Hue10YR5/4 にぶい 黄褐色砂 黑褐色砂ブロック混 11 Hue5Y5/1 灰色砂 下層は灰色砂と黑色シルト交互に堆積	
G-G'	海地帯	1 Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 塗化物混 2 Hue10YR4/1 灰色砂 Hue10YR6/1 次黃褐色砂 3 Hue10YR5/2 黑黃褐色砂 4 Hue2.5Y3/2 黑褐色砂質土 5 Hue2.5Y3/2 次黃褐色砂 6 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 砂粒混 7 Hue10YR4/3 にぶい 黑褐色砂 8 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 9 Hue10YR2/1 黑褐色砂質土 塗化物混 10 Hue10YR4/1 橙褐色砂 11 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 12 Hue10YR4/1 黑褐色砂 黑褐色シルト 13 Hue10YR5/2 にぶい 黑褐色砂 14 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 塗化物混 15 Hue10YR5/1 滅灰砂 16 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 黑褐色砂ブロック混 17 Hue10YR6/2 灰黄褐色砂 黑褐色シルトブロック混 18 Hue10YR3/2 黑褐色シルト 19 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 20 Hue10YR5/2 灰黄褐色砂 (稍) 黑褐色シルト混 21 Hue10YR4/2 灰黄褐色砂 黑褐色シルトブロック混 22 Hue10YR5/3 にぶい 黑褐色砂 23 Hue10YR3/2 黑褐色砂 黑褐色シルトブロック混	SD01-02 1 Hue10YR2/1 灰色シルト 2 Hue10YR3/1 橙褐色シルト 3 Hue10YR2/2 黑褐色砂質土 4 Hue10YR4/2 黑褐色砂 5 Hue10YR3/2 次褐色砂質土 6 Hue10YR2/1 黑色シルト 7 Hue10YR2/1 黑色シルト かたくじまる 8 Hue10YR3/2 黑褐色シルト 木片混 9 Hue10YR4/2 灰黄褐色砂 黑褐色シルト混 10 Hue10YR5/2 灰黄褐色砂 砂粒混 11 Hue10YR3/2 黑褐色砂 混灰色砂混 12 Hue10YR2/2 黑褐色シルト 13 Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 14 Hue10YR5/2 灰黄褐色砂 黑褐色砂 木片混 15 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 16 Hue10YR2/1 黑褐色砂質土 黑色シルトブロック混 17 Hue10YR2/2 黑褐色シルト 18 Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 19 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 やヤシルト 20 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 やヤシルト 21 Hue10YR3/1 黑褐色シルト 木片混 22 Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 やヤシルト 23 Hue10YR3/3 黑褐色砂質土 木片混 24 Hue10YR4/1 混灰色砂 黑褐色シルト層状に混 木片混

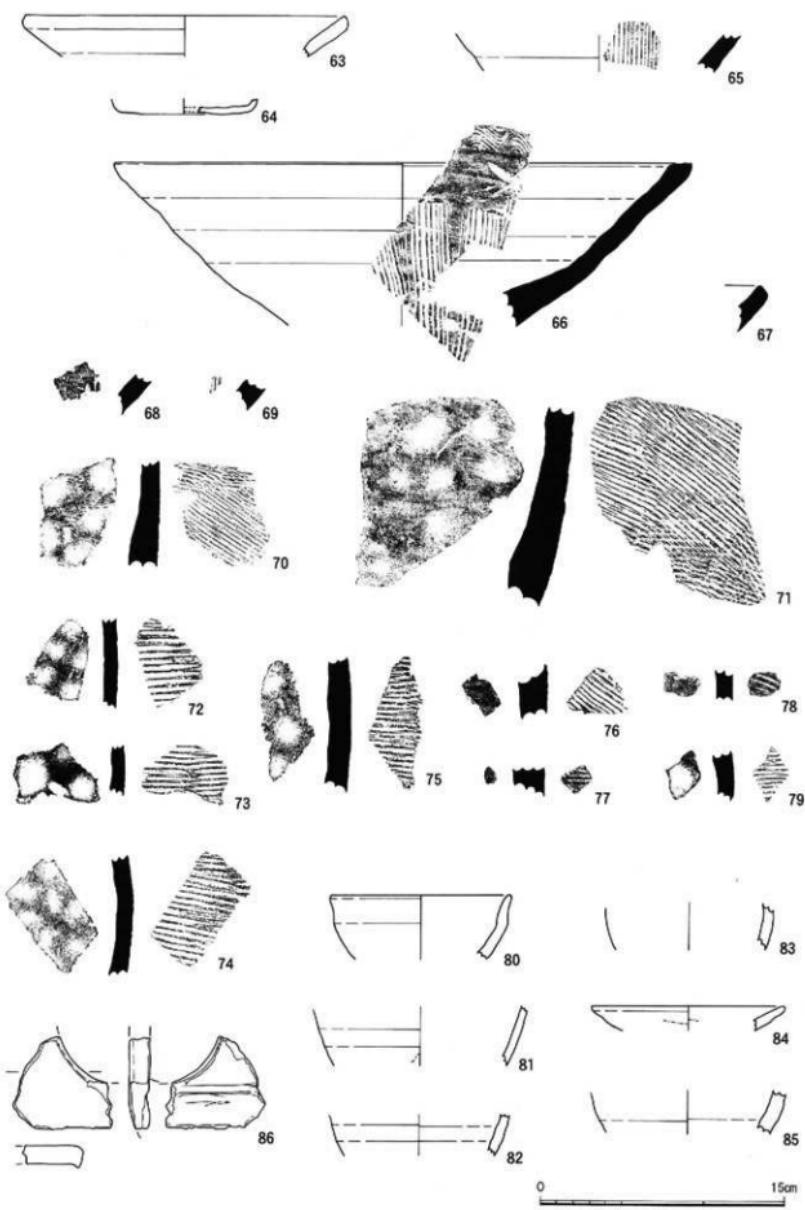
	25	Hue10YR3/1 黒褐色砂質土やシルト			26	Hue10YR6/3に似る黄褐色砂	
	26	Hue10YR3/2 黒褐色砂質土やシルト 黒褐色砂多量混			27	Hue10YR3/1型褐色シルト 砂少量混	
	27	Hue2.5Y4/1 黄灰砂 黑褐色シルト層状に混			28	Hue10YR3/2 黑褐色砂 かたくしまる	
	28	Hue10YR3/1 黑褐色シルト			29	Hue2.5Y4/1 黄灰色砂 黑褐色シルト層状に混	
	29	Hue10YR4/1 褐灰色砂			30	Hue2.5Y4/1 黄灰色砂 細い 黑褐色シルト層状に混	
	30	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 かたくしまる			31	Hue10YR3/1 黑褐色シルト 砂粒混 木片混	
	31	Hue10YR3/1 黑褐色シルト 砂粒混 木片混			32	Hue2.5Y4/1 黄灰色砂	
	32	Hue10YR3/2 黑褐色砂質土			33	上部:Hue2.5Y7/3浅黄色砂 下部:Hue10YR4/1に似る黄褐色砂	
	33	Hue10YR2/2 黑褐色砂質土					
	34	Hue10YR3/1 黑褐色砂 黑褐色シルト混					
	35	Hue10YR4/1 褐灰色砂 灰色シルト層					
	36	Hue10YR3/1 黑褐色砂 黑褐色シルト混					
	37	Hue10YR4/1 浅灰色砂					
	38	Hue10YR3/1 黑褐色シルト 黑褐色砂層状に混					
	39	Hue10YR5/4 に似る黄褐色砂					
SK 30	40	Hue2.5Y4/1 黄灰砂 に似る黄褐色砂					
	ア	Hue10YR3/2 黑褐色砂質土					
	イ	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 灰色砂多量混					
	ウ	Hue10YR3/1 黑褐色シルト 砂粒混					
	エ	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 ややシルト					
	オ	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土					
	カ	Hue10YR2/1 黑褐色シルト 砂粒混					
	キ	Hue10YR2/2 黑褐色砂質土 ややシルト					
	ク	Hue10YR4/3 に似る黄褐色砂					
	ケ	Hue10YR3/1 黑褐色シルト					
	コ	Hue10YR2/2 黑褐色シルト					
	サ	Hue10YR5/3 に似る黄褐色砂					
	シ	Hue10YR2/1 黑褐色シルト					
	ス	Hue10YR3/1 黑褐色砂 黑褐色シルト混					
	セ	Hue5Y4/1 灰色砂					
<hr/> <i>b-h^a</i>							
SD01	1	Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 やシルト			21	Hue10YR3/1 黑褐色砂 黑褐色シルト混	
	2	Hue10YR3/3 増加 黑褐色砂質土 黑褐色砂混 炭化物混			22	Hue5Y5/1 灰色砂 細い	
	3	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 やシルト かたくしまる					
	4	Hue10YR2/1 黑褐色シルト					
	5	Hue10YR3/2 黑褐色砂質土 かたくしまる					
	6	Hue10YR3/1 黑褐色シルト					
	7	Hue10YR5/2 黑褐色砂 黑褐色シルト層状に混					
	8	Hue10YR4/1 褐灰色砂					
	9	Hue10YR2/2 黑褐色シルト					
	10	Hue10YR3/1 黑褐色シルト 砂少量混					
SD02	11	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 かたくしまる 炭化物混					
	12	Hue10YR3/2 黑褐色砂質土					
	13	Hue10YR3/2 黑褐色砂質土					
	14	Hue10YR3/2 黑褐色砂質土					
	15	Hue2.5Y3/1 黑褐色シルト					
	16	Hue2.5Y5/1 黄褐色砂質土					
	17	Hue2.5Y4/1 黄灰色砂					
	18	Hue2.5Y5/1 黄灰色砂					
	19	Hue2.5Y3/1 黑褐色シルト					
	20	Hue10YR3/1 黑褐色シルト					
d-d'	21	Hue10YR4/1 黑褐色砂					
	22	Hue10YR5/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	23	Hue10YR6/3 黑褐色砂質土 ブロック少量混					
	24	Hue10YR6/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	25	Hue10YR5/2 黑褐色砂質土					
	26	Hue2.5Y6/1 黄褐色砂質土					
	27	Hue10YR6/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	28	Hue10YR6/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	29	Hue10YR6/3 黑褐色砂質土					
	30	Hue2.5Y6/2 黄褐色砂質土 ブロック少量混					
<hr/> <i>d-d'</i>							
SD02	31	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	32	Hue10YR5/2 黑褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	33	Hue10YR6/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	34	Hue2.5Y4/1 黄褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	35	Hue10YR4/1 黑褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	36	Hue10YR5/2 黑褐色砂質土					
	37	Hue2.5Y6/1 黄褐色砂質土					
	38	Hue10YR6/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	39	Hue10YR6/3 黑褐色砂質土					
	40	Hue2.5Y6/2 黄褐色砂質土					
<hr/> <i>d-d'</i>							
d-d'	41	Hue10YR3/1 黑褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	42	Hue10YR5/2 黑褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	43	Hue10YR6/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	44	Hue2.5Y4/1 黄褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	45	Hue10YR4/1 黑褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	46	Hue10YR5/2 黑褐色砂質土					
	47	Hue10YR6/3 に似る黄褐色砂質土 ブロック少量混					
	48	Hue2.5Y5/1 黄褐色砂質土 1層より粘性弱い					
	49	Hue10YR6/6 明黄褐色砂質土 ブロック微量混					
	50	Hue5H6/1 黄褐色砂質土					
<hr/> <i>d-d'</i>							
地山	51	上部:Hue2.5Y6/2 黄褐色砂					
	52	下部:Hue5H6/1 黄褐色砂					



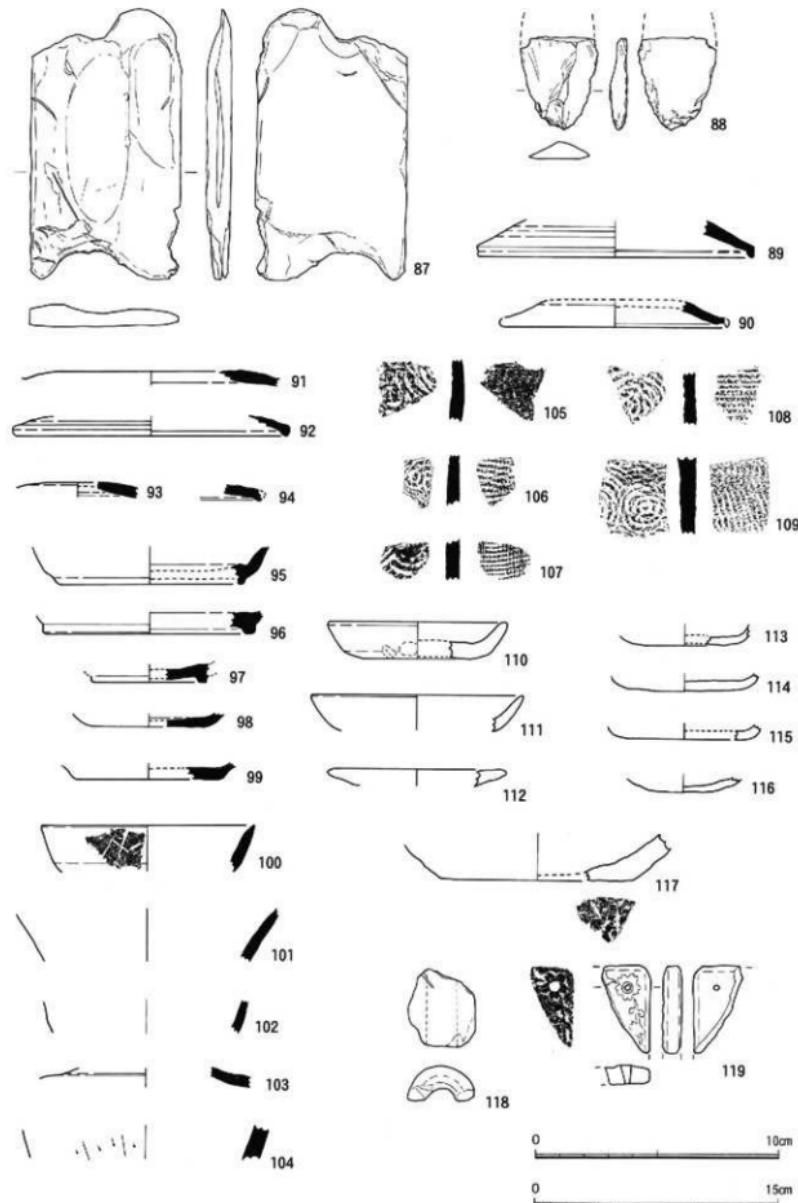
第20図 遺物実測図(1) ($S = 1 / 3$)



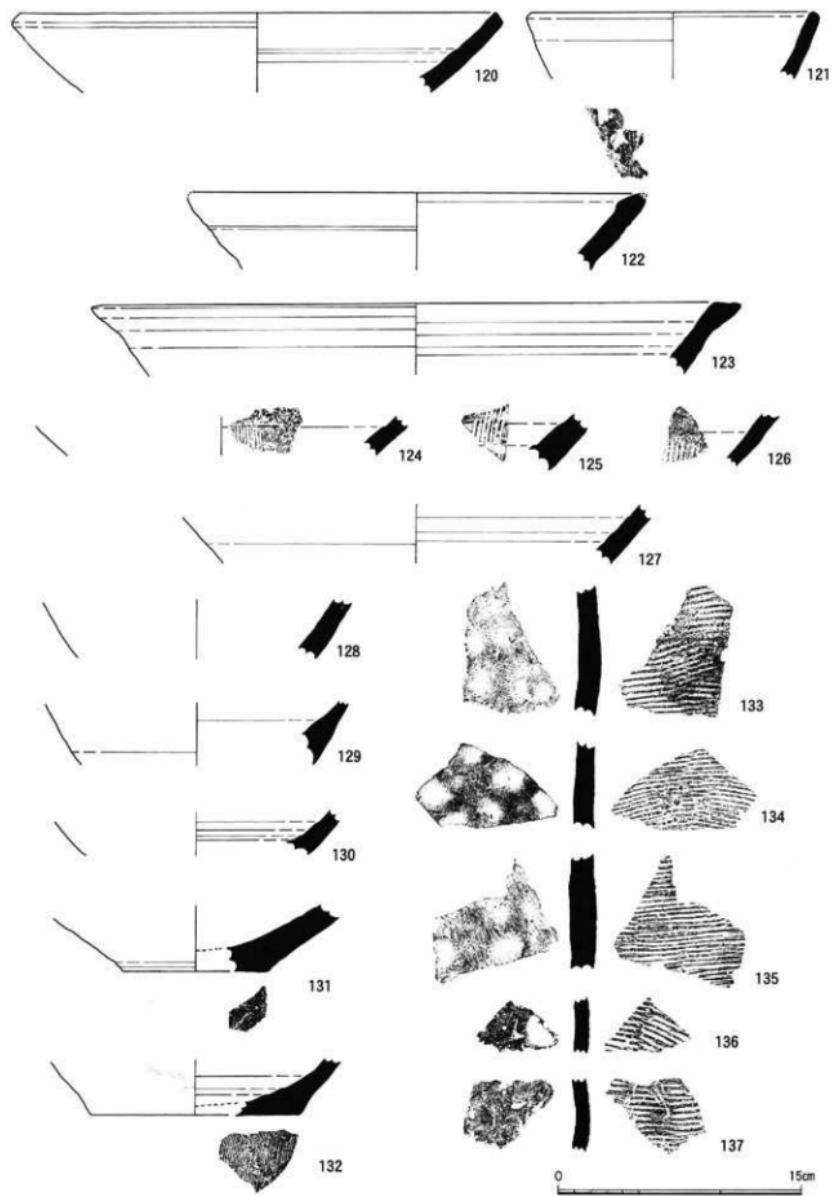
第21図 遺物実測図(2) (S = 1 / 3, 32のみ S = 1 / 2)



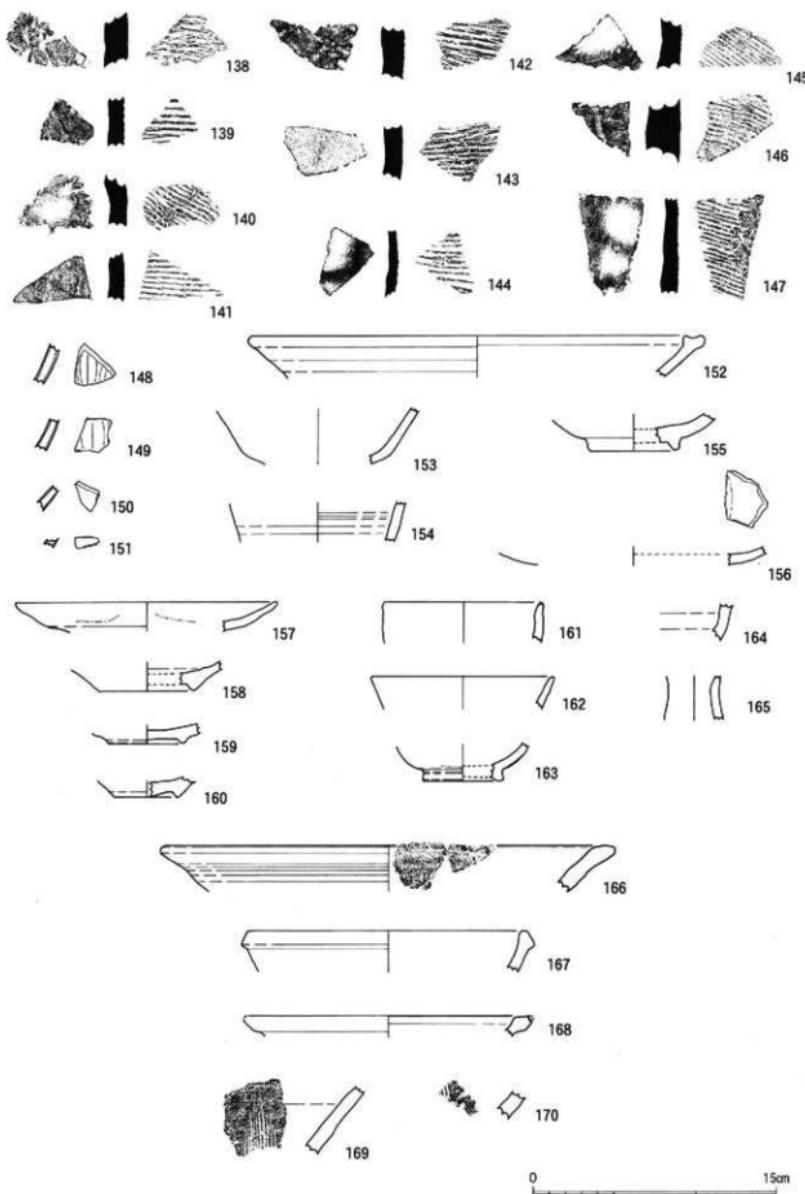
第22図 遺物実測図(3) (S = 1 / 3)



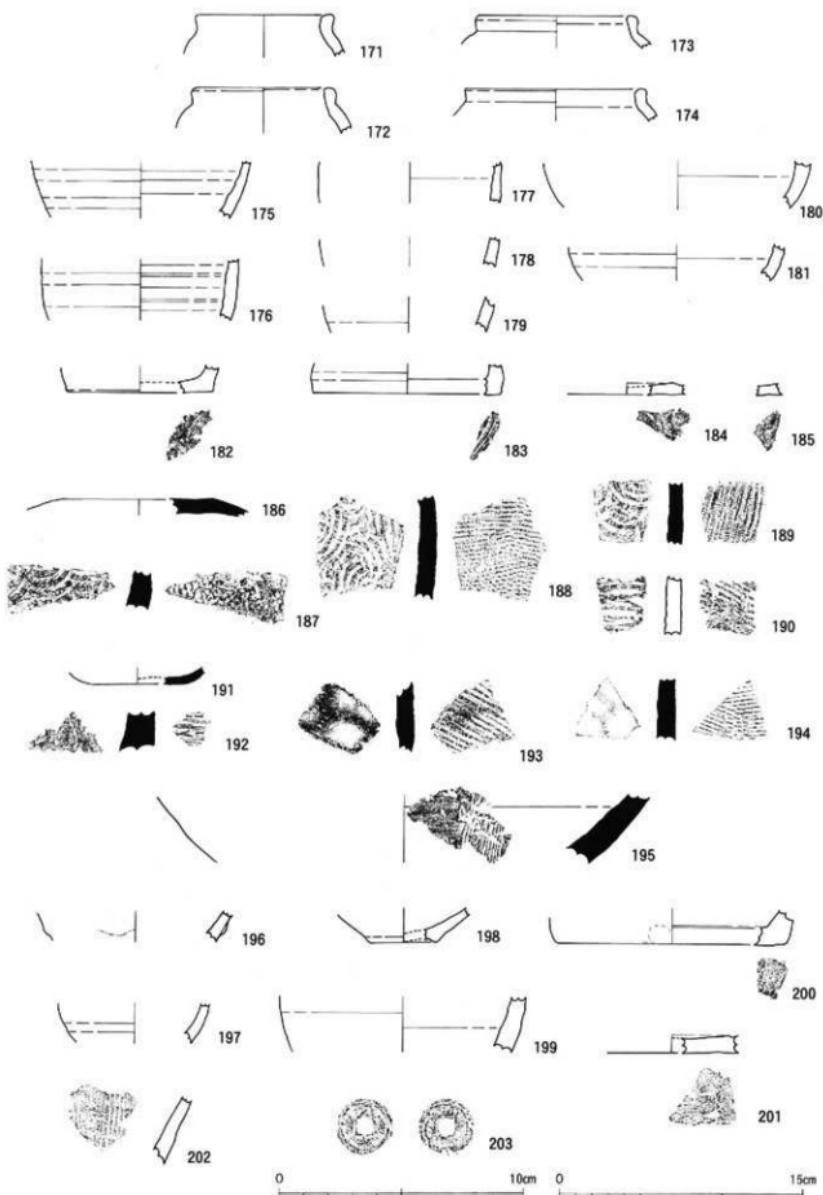
第23図 遺物実測図(4) (S = 1 / 3, 87・88・119はS = 1 / 2)



第24図 遺物実測図(5) (S = 1 / 3)



第25図 遺物実測図(6) (S = 1 / 3)



第26図 遺物実測図(7) (S = 1 / 3, 203はS = 1 / 2)



図版1 1. 鞍川バイパス遺跡群遠景 (2004年撮影) 2. 鞍川中A遺跡近景 (調査着手前 2002年撮影)



図版2 遺跡周辺空中写真（1947年米軍撮影）国土地理院

この写真是、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製したものである。（承認番号）平16 北緯、第206号

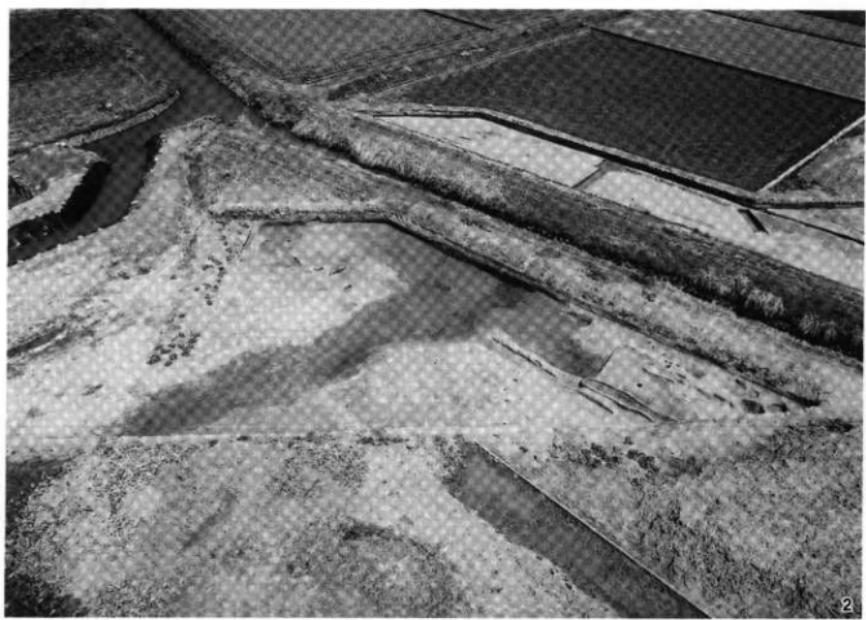


図版3 遺跡周辺空中写真（1975年撮影）国土地理院

この写真是、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。（承認番号）平16 北複、第206号



1

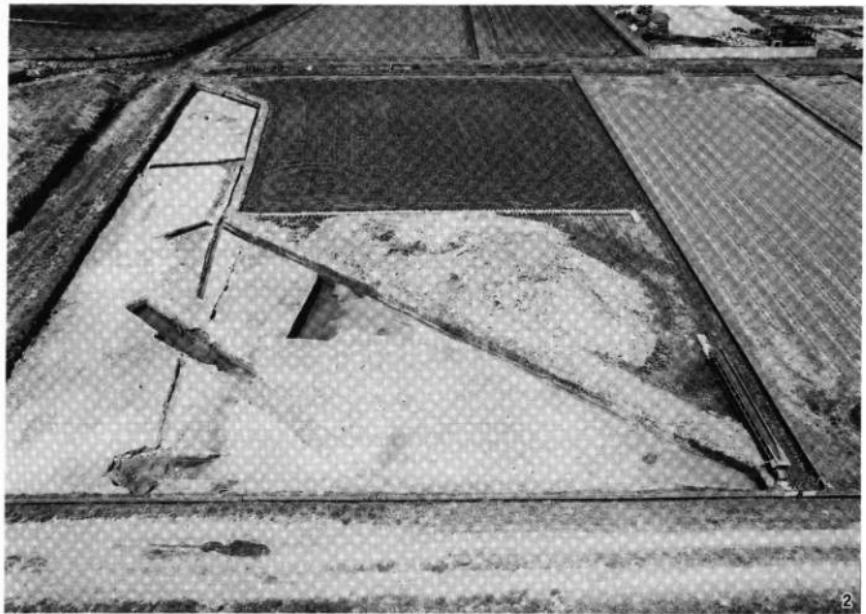


2

図版4 1. I地区全景 2. II地区全景

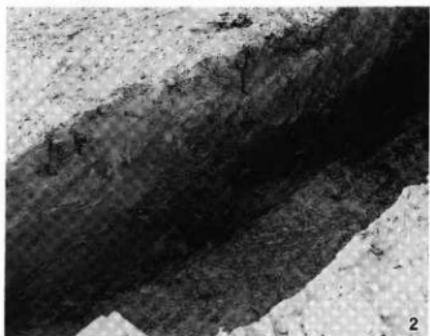


1



2

図版5 1. III地区全景 2. IV地区全景



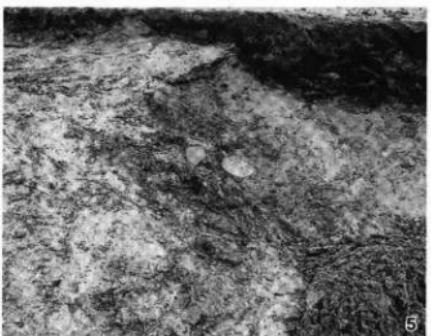
2



3

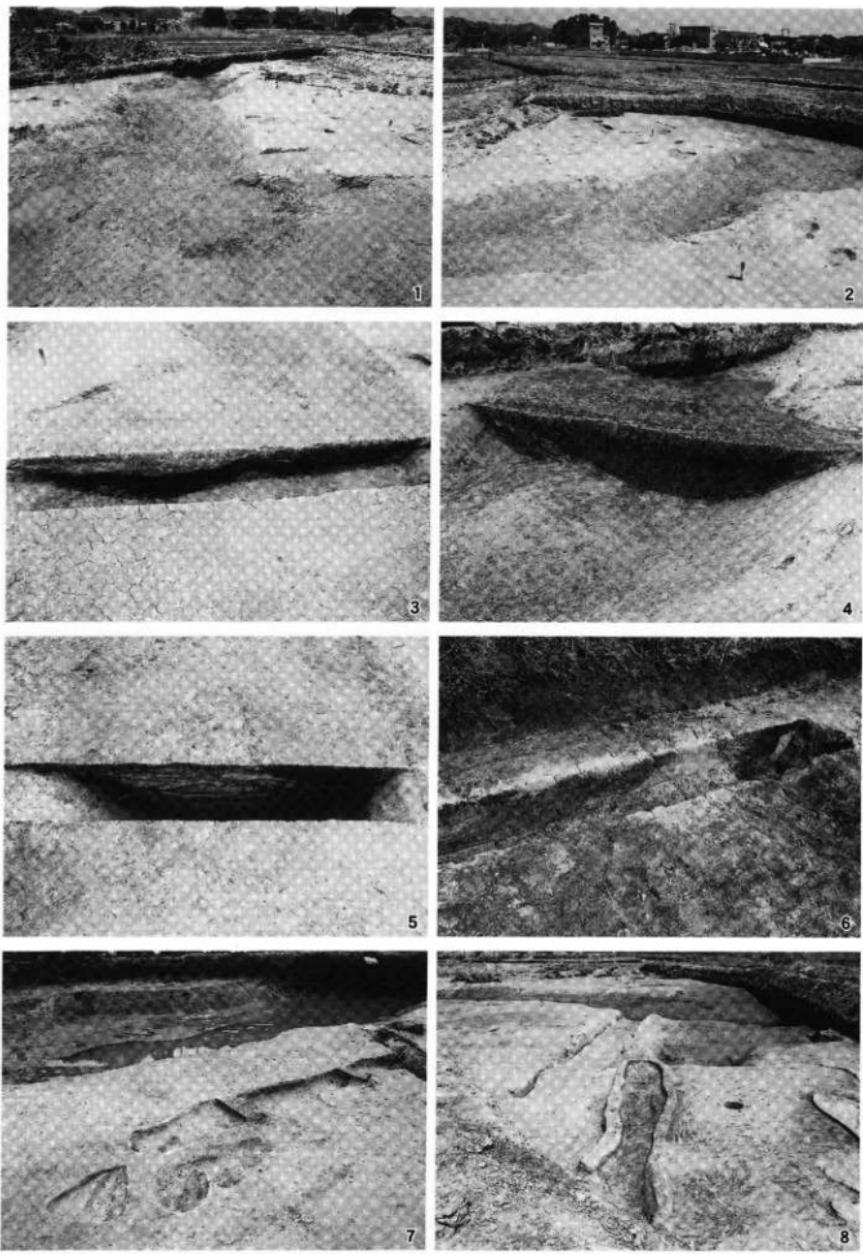


4



5

図版6 1. 調査区俯瞰写真 2. I地区湿地帯堆積 3. 紅谷川旧河道（土地改良前のもの）
4. SD01・SD02（北東側下流方向から） 5. SD02 遺物出土状況



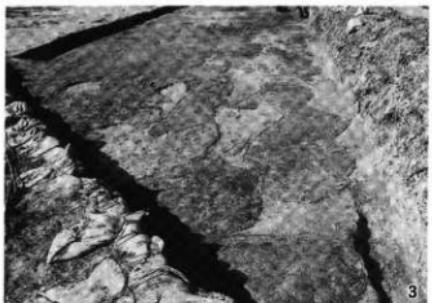
図版7 1. SD01 (北東側合流点から) 2. SD01・SD02 (南西から) 3. SD01 土層断面 (b-b')
 4. SD01 土層断面 (c-c') 5. SD02 土層断面 (d-d') 6. SD02・SK30 土層断面 (a-a')
 7. SD01とSD11 (北東から) 8. SD01・SD02とSD13 (南側SD02 上流方向から)



1



2



3



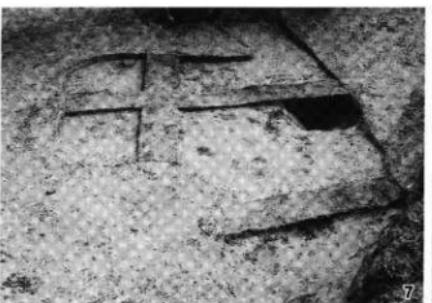
4



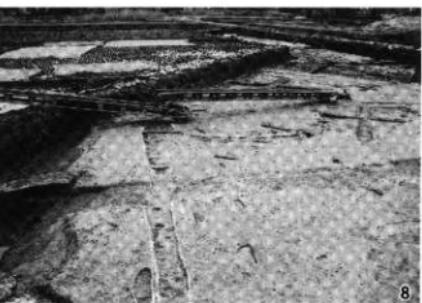
5



6



7

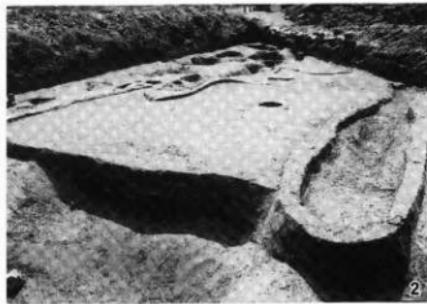


8

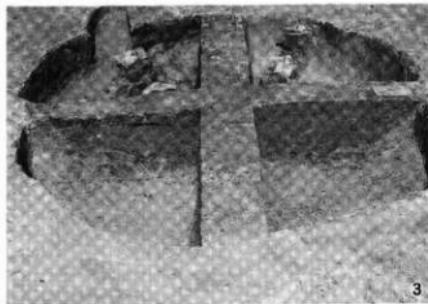
図版8 1. SK01 (北から) 2. SK01ほかI地区遺構完掘状況 (西から) 3. SK04～08 検出状況
(南から) 4. SK04～08 完掘状況 (南西から) 5. SD08 (南東から) 6. SD08 (南から)
7. SD09 (西から) 8. SD01・SD10 (東から)



1



2



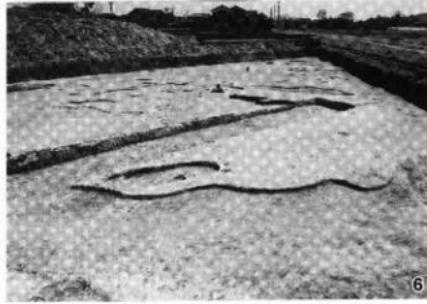
3



4



5



6

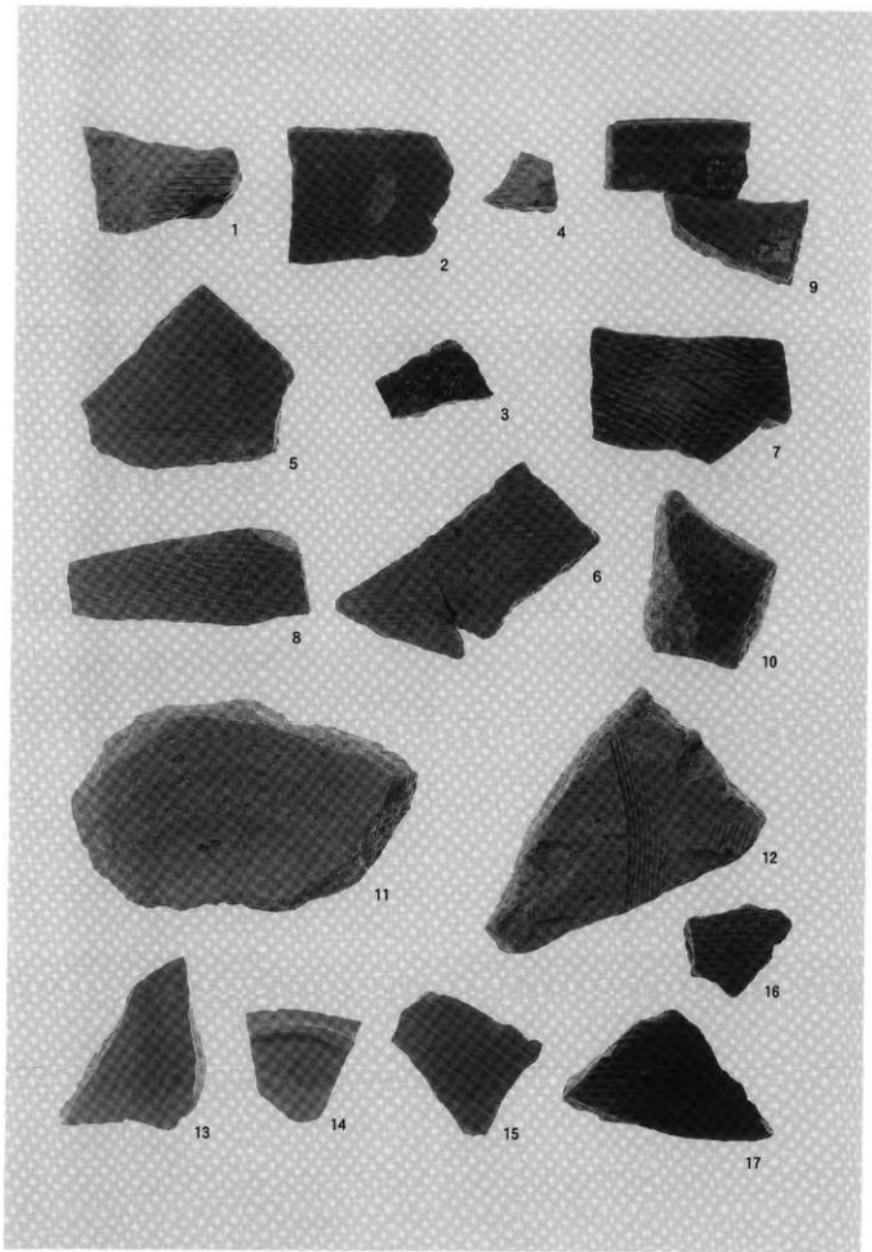


7

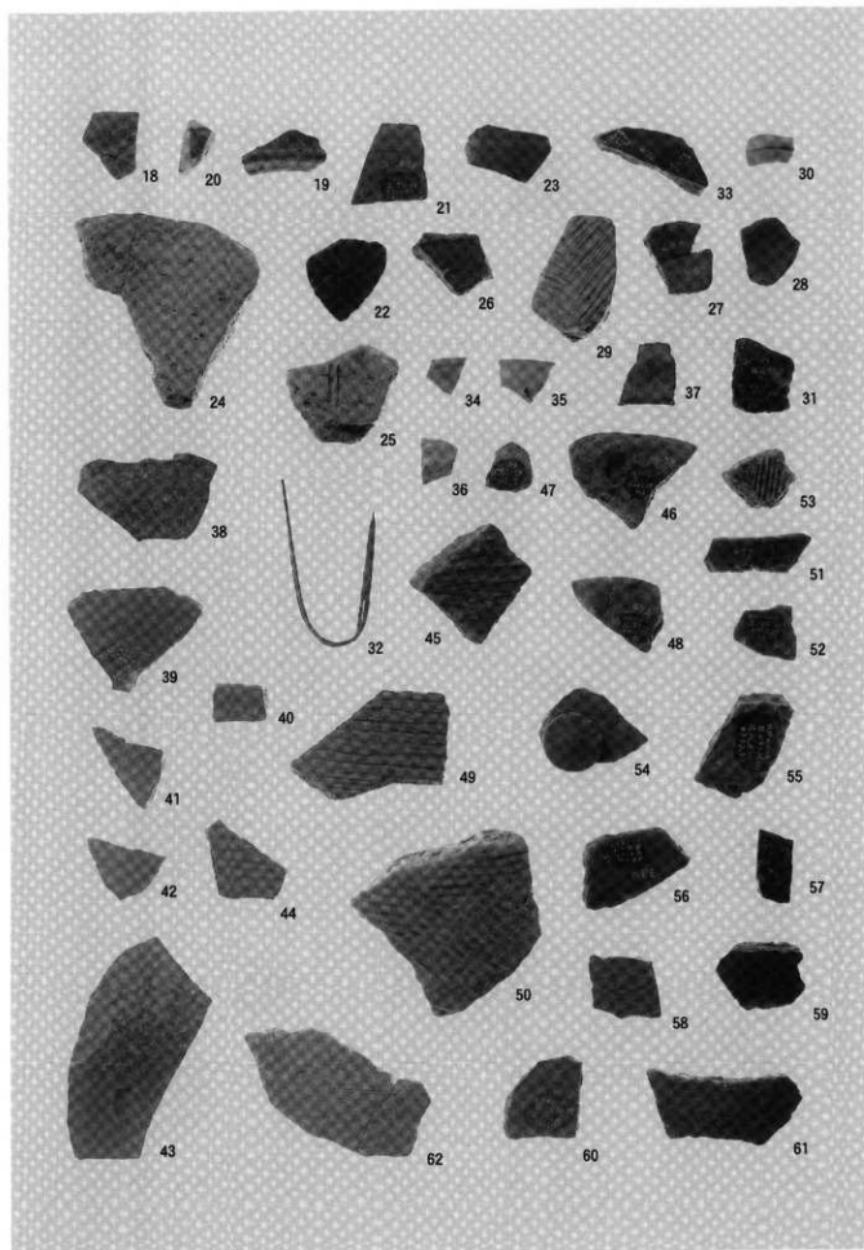


8

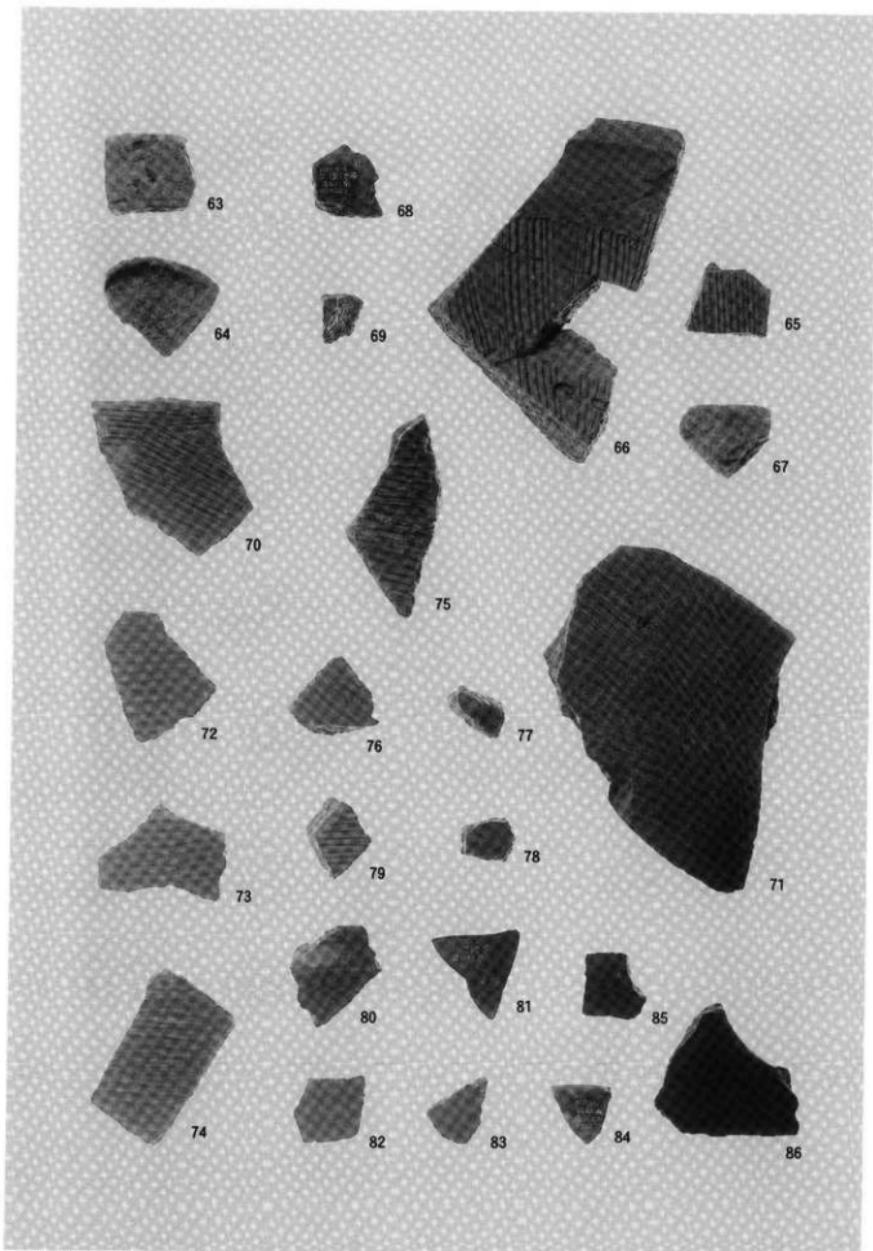
図版9 1. SD03 (東から) 2. SD12・13 (北西から) 3. SK13 土層断面 (南から)
4. SK13 完掘状況 (南東から) 5. SD14 完掘状況 (南東から) 6. IV地区遺構完掘状況
(西から) 7・8. 作業風景



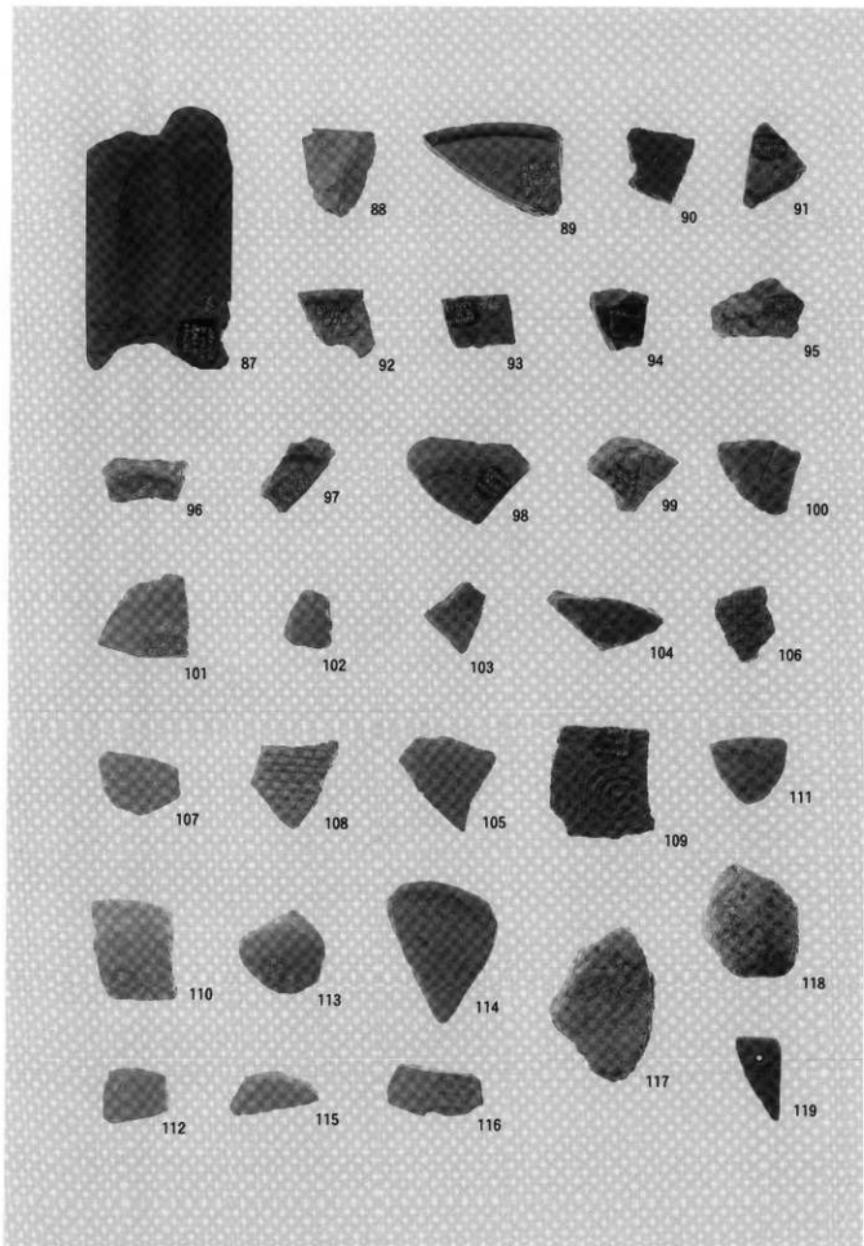
図版10 遺物写真（1）



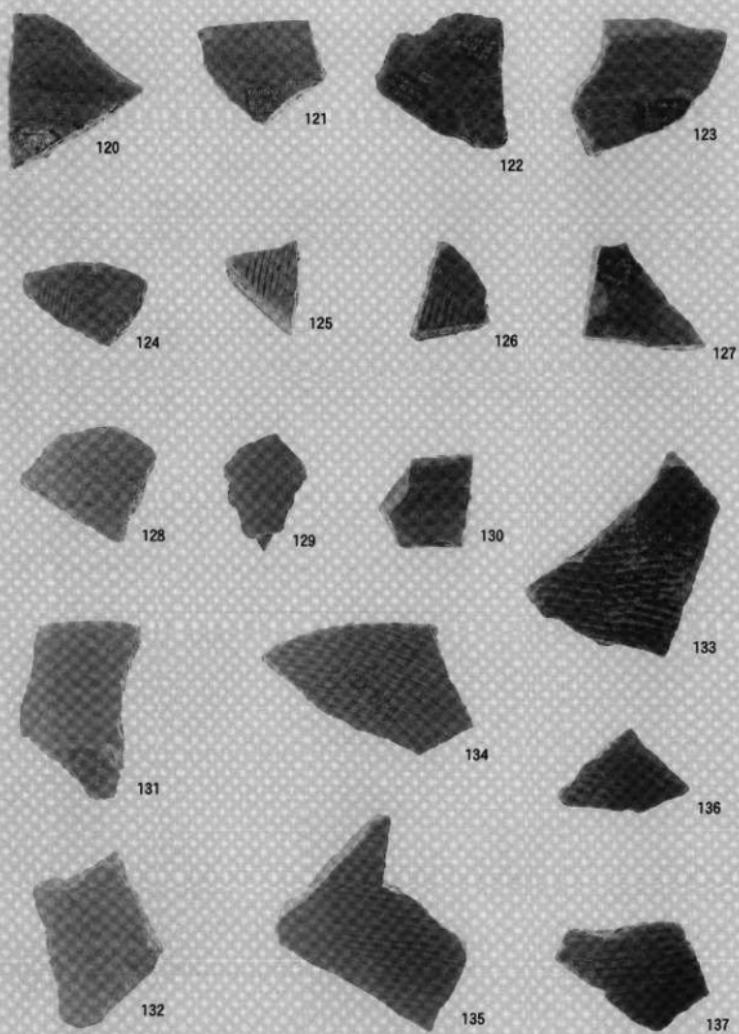
図版11 遺物写真（2）



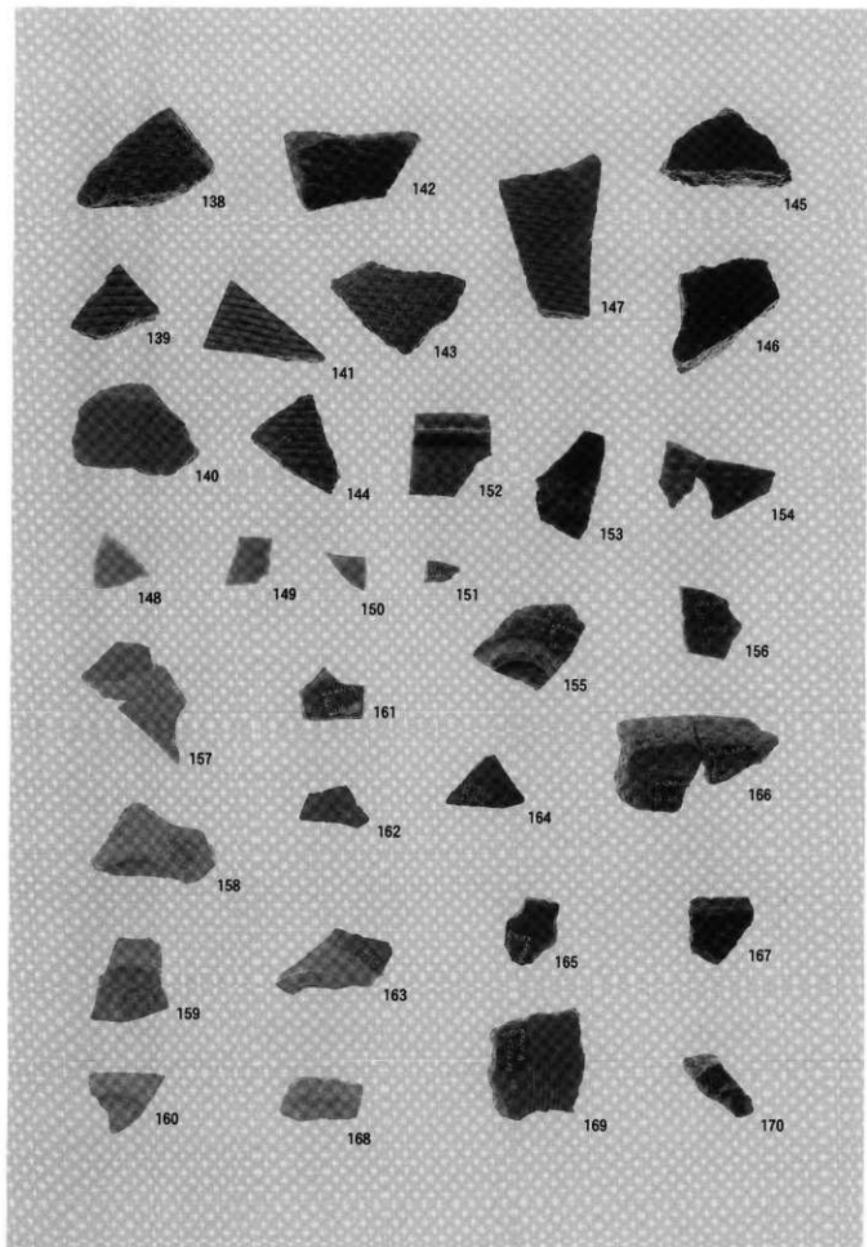
図版12 遺物写真（3）



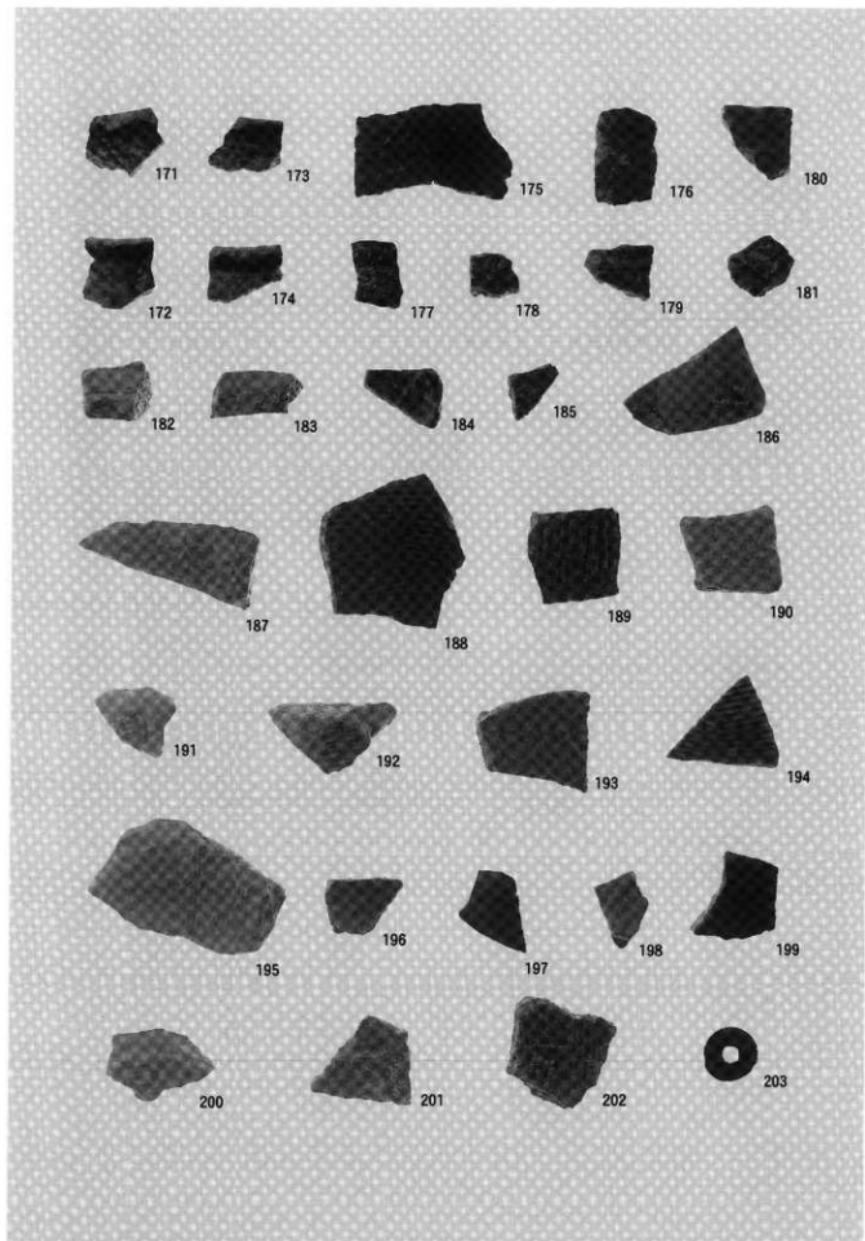
図版13 遺物写真（4）



図版14 遺物写真 (5)



图版15 遗物写真 (6)



图版16 遗物写真（7）

報告書抄録

ふりがな	くらかわなかえーいせき						
書名	鞍川中A遺跡						
副書名	鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告						
巻次	I						
シリーズ名	水見市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第41冊						
編著者名	廣瀬 直樹						
編集機関	水見市教育委員会						
所在地	〒935-0016 富山県水見市本町4番9号 TEL 0766(74)8215						
発行年月日	2005年2月28日						
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
鞍川中A 遺跡	富山県水見市 鞍川	16205	308	36° 51' 24"	136° 58' 00"	20021007 20030416	約1,650 m ² 道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鞍川中A 遺跡	その他	古代 中世 近世	流路・土坑・ 溝・小穴など	須恵器 古代土師器 珠洲焼 中世土師器	中世の流路を 検出した。		

平成17年2月25日 印刷

平成17年2月28日 発行

鞍川中A遺跡

水見市埋蔵文化財調査報告書第41冊

編集・発行 水見市教育委員会
 〒935-0016
 富山県水見市本町4番9号
 ☎0766(74)8215
 印刷 有限会社 ひみ印刷社